取扱説明書

CONTAX



CONTAX AX

この取扱説明書は、Recycled Paper を使用しています。

このたびは、コンタックスAXをお買いあげいただきありがとうございます。
このカメラは、既存のコンタックス一眼レフ用カールツァイスレンズをそのまま使用してオートフォーカスを可能にする、オートマティックバックフォーカシング（ABF）方式を採用しております。またマニュアルフォーカスもレンズの距離リングでできる、オートフォーカス／マニュアルフォーカスの両操作性を重視したオートフォーカス一眼レフカメラです。
さらに次のようにかずかずの特徴もございますので、ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しい取り扱いで末永くご愛用ください。

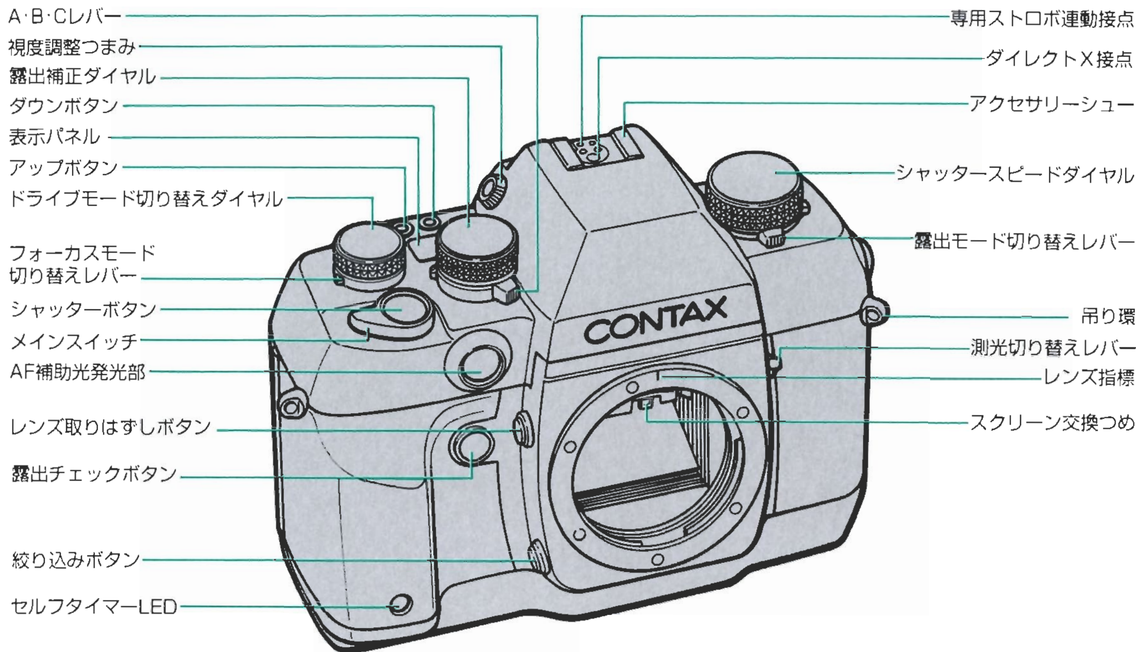
この取扱説明書の説明内容は、マルチモード対応のプラナーT＊50mmF1.4(MM)付きで行っていますが、他のカールツァイス交換レンズを装着した場合も特に記載がない限り使用方法は同じです。

①絞り優先オート、シャッター優先オート、プログラムオートなどの露出制御機能をもつ、マルチモード対応の一眼レフカメラです。
②マニュアルフォーカス撮影、マクロ撮影のときは、ピントの合い具合をフォーカス表示で確認することができます。
③カメラをご自分に合った作動内容にすることができる"カスタム機能"を搭載しています。
④ストロボオートセット機能を備えた当社TLAストロボと組み合わせると、カメラでセットしたフィルム感度、絞り値が自動的にストロボにもセットされます。
⑤コンタックスデータバックD-8（別売り）を取り付けると、露出データをフィルムの最初の2コマ（あるいは1コマ）にまとめて写し込んだり、日付や露出データ等をコマ間に写し込むことができます。また、インターバル撮影をすることもできます。



この取扱説明書は、図のようにして各部の名称と照らし合わせて読むことができます。

各部の名称


A·B·Cレバー
視度調整つまみ
露出補正ダイヤル
ダウンボタン
表示パネル
アップボタン
ドライブモード切り替えダイヤル
フォーカスモード
切り替えレバー
シャッターボタン
メインスイッチ
AF補助光発光部
レンズ取りはずしボタン
露出チェックボタン
絞り込みボタン
セルフタイマーLED
専用ストロボ連動接点
ダイレクトX接点
アクセサリーシュー
シャッタースピードダイヤル
露出モード切り替えレバー
CONTAX
吊り環
測光切り替えレバー
レンズ指標
スクリーン交換つめ

安全に関する表示について

この取扱説明書では、このカメラを安全に使用していただくために、次のような表示をしています。内容をよくお読みいただき、正しく使用してください。

⚠注意	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が傷害を負う危険および物的損害の発生が想定されることを示します。

⚠警告	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。

取り扱い上の注意

〈カメラ使用上の注意〉

- レンズやファインダー接眼部などにゴミ・ホコリがある場合は、ブロワーで吹きとばすか、柔かいレンズ刷毛で軽く払い、指紋などがついた場合はむやみに拭かず、市販のレンズ紙などで軽く拭いてください。なお、ボンベタイプのブロワーは絶対に使わないでください。風圧でゴミ・ホコリがさらにカメラの奥に入り込む恐れがあります。またミラー面のゴミやホコリは、レンズ刷毛で軽く払う程度にしてください。
- 本体の汚れを落とすときは、柔らかな布などで拭いてください。ベンジンやシンナーなどの有機溶剤は本体破損の原因になりますので絶対に使用しないでください。

⚠注意	● 海岸やほこりの多い所での撮影後は、カメラをよく清掃してください。潮風は金属を腐食し電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙、発火を起こすこともあります。また砂ぼこりは内部機構の作動不良を起こします。 ● 寒いところから急に暖かい室内に持ち込むと、レンズがくもることがあります。しばらくするとくもりは消えますが、繰り返し行うとレンズやボディ内部に水滴が生じます。水滴は電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。急激な温度変化はできるだけ避けてください。 ● カメラは精密な電子機器です。電子回路の断線による発煙・発火や機構の破損の原因となる落下や衝撃は避けてください。 ● **海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは、前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてから使用してください。また、予備の電池を携行してください。**

〈シャッター幕について〉

シャッター幕は非常に薄い材質でできています。絶対に指で突いたり、触れたり、拭いたりしないでください。フィルム交換の際はフィルム先端がシャッター幕に触れないようにご注意ください。また、ブロワーで吹く際は強く吹かないでください。強く吹くと変形や破損の恐れがあります。ボンベタイプのブロワーは絶対に使わないでください。

⚠警告	● カメラや電池が熱くなる、煙が出る、焦げ臭いなどの異常を感じたときは、速やかに電池を取り出してください。火災や火傷の原因となります。(電池を取り出す際、火傷には十分ご注意ください。) ● ストロボ撮影時、ストロボを人の目（とくに乳幼児）に近づけて、撮影しないでください。目の近くでストロボを発光すると視力障害を起こす危険性があります。 ● 移動しながらの撮影はおやめください。特にファインダーを覗きながら移動すると事故の原因になります。 ● 撮影時は被写体に気をとられすぎずに、周囲の状況にも十分注意をはらってください。

〈マイクロコンピューターの保護回路について〉

このカメラは外部の強力な静電気に対して内部のマイクロコンピューターを保護するための安全回路を内臓しています。この安全回路の働きにより極めてまれにカメラが作動しなくなることがあります。このような場合は、メインスイッチをOFFにし、一旦電池を取り出して、もう一度入れ直してからご使用ください。

〈偏光フィルターについて〉

このカメラは、AF測距系と測光系の特性上、直線偏光フィルターを使用すると測距誤差や測光誤差を生じます。偏光フィルターを使って撮影するときは、円偏光フィルターをご使用ください。

〈カメラの保管について〉

- 暑い場所（夏の海辺、直射日光下の車内など）に長時間おいておくと、フィルムや電池の性能を低下させ、カメラにも悪影響を及ぼしますので放置しないでください。
- カメラを長期間使わないときは電池を取り出しておいてください。電池の液漏れなどによる事故を防ぎます。

⚠注意	● カメラは湿気やほこりのある場所や防虫剤のあるタンス、実験室のように薬品を扱うところを避け、風通しのよいところに保管してください。電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。

〈電池取り扱い上の注意〉

- 電池は一般に、低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地での使用の前後はカメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温してください。なお低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。
- 電池の＋－極が汗や油などで汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾布でよく拭いてから使用してください。
- 長期の旅行などには、予備の新しい電池を用意してください。
- 電池の＋－を間違えて入れるとカメラは作動しません。
- リチウム電池(2CR5)は充電できません。

⚠注意	● 電池は、金属製のピンセットのような導電性のあるものでつままないでください。電池の消耗を早めるだけでなく、ショートして危険です。

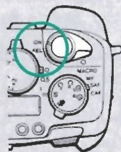
⚠警告	● 電池を火の中に入れたり、充電、ショート、分解、加熱は絶対にしないでください。電池が破裂し火災、けがや周囲を汚損する原因となります。 ● 電池は幼児の手の届かないところに置いてください。万一電池を飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

目 次

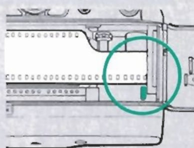
撮影の早わかり（オートフォーカス、オート露出撮影）



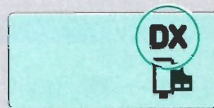
1 電池を入れます。（P13）



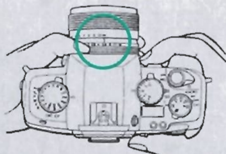
2 メインスイッチを“ON”にします。（P15）



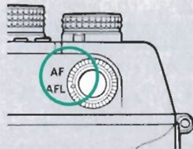
3 DXフィルムを入れ、先端をオレンジ色の“▮”マークの位置まで引き出し、そのままスプールの上にのせます。（P21）



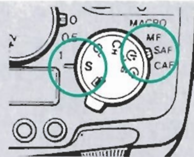
4 フィルム感度を“DX”にセットします。（P23）



5 レンズを取り付け、レンズの距離リングを“∞”にセットします。（P40）



6 フォーカスボタン機能切り替えダイヤル（Fダイヤル）を“AFL”にします。（P40）



7 フォーカスモード切り替えレバーを“SAF”にしドライブモードを“S”にセットします。（P28、41）

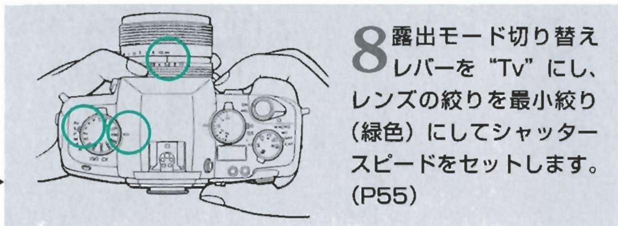
絞り優先オート

シャッター優先オート

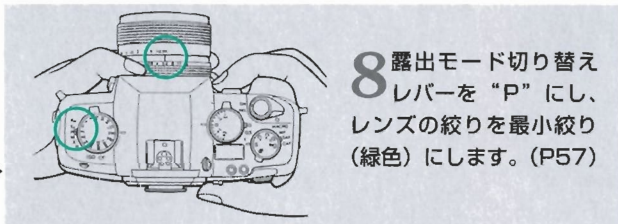
プログラムオート



8 露出モード切り替えレバーを“Av”にし、絞りをセットします。(P54)



8 露出モード切り替えレバーを“Tv”にし、レンズの絞りを最小絞り(緑色)にしてシャッタースピードをセットします。(P55)



8 露出モード切り替えレバーを“P”にし、レンズの絞りを最小絞り(緑色)にします。(P57)





9 ファインダー内水平スプリット部を被写体に向け、シャッターボタンを半押しします。(P45)

10 合焦マークが点灯します。シャッターボタンを押し込んで撮影します。(P46)

ストラップの取り付けかた（標準装備）

図にならって取り付けてください。

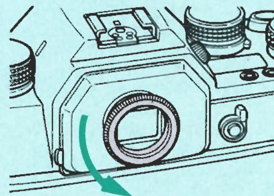
①

②

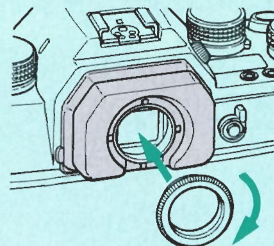
③

アイカップF-4の取り付け（標準装備）

①接眼リングを図のように回してはずします。

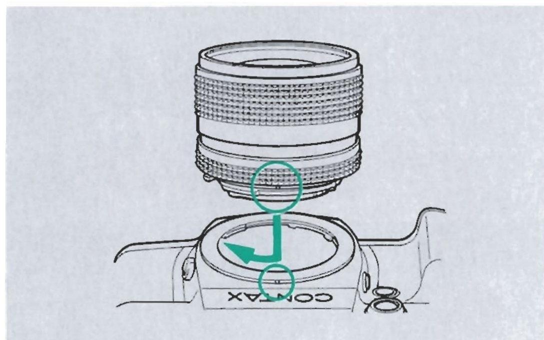


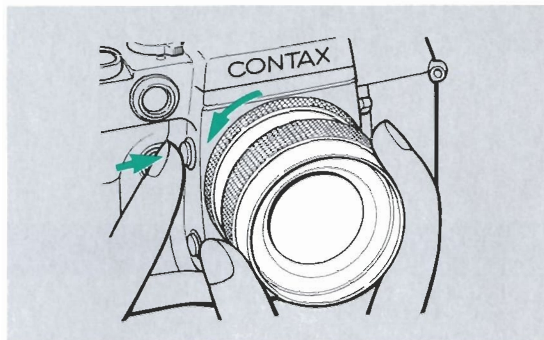
②アイカップを接眼部に取り付けて、接眼リングをネジ込んで固定してください。



撮影前の
基本操作

レンズの取り付け／取りはずし





〈レンズの取り付け〉

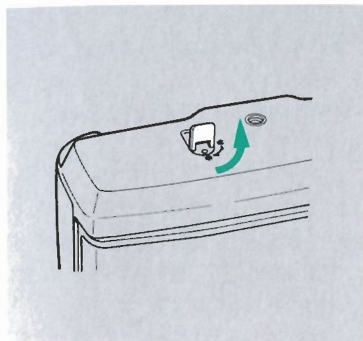
まずカメラのボディキャップとレンズの後キャップをそれぞれ回してはずします。次にレンズ側の赤点をカメラ側のレンズ指標に合わせてはめ込み、時計方向に“カチッ”と音がして止まるまで回して取り付けます。

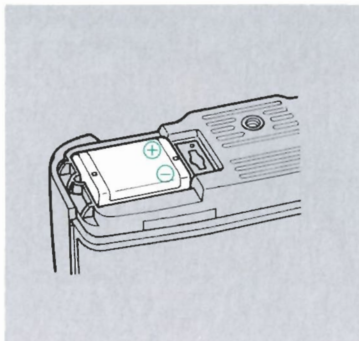
〈レンズの取りはずし〉

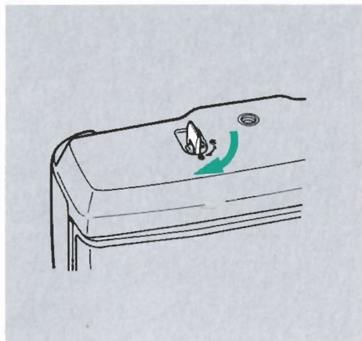
レンズ取りはずしボタンを押しながらレンズを反時計方向に止まるまで回し、前方に引き出してはずします。カメラからはずしたレンズにはレンズキャップと後キャップ、またカメラにはボディキャップをかぶせて保護することを忘れないでください。

- レンズ着脱の際、レンズ面やボディ内部に触れないでください。
- フィルムが入っている状態でレンズを着脱するときは、直射日光を避けてください。

電池の入れかた







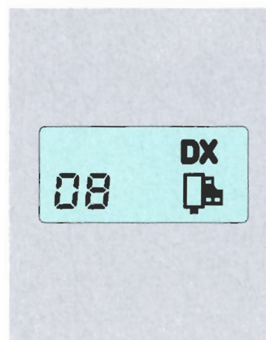
このカメラはフィルム巻き上げ、巻き戻し、シャッターなど、すべての機構が電池で作動するようになっています。カメラは電池が入っていないと作動しません。

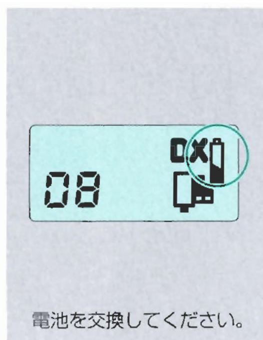
1 カメラ底部のバッテリー室カバー着脱ノブを起こし、"●" マークを "⊂" に合わせてバッテリー室カバーをはずします。

2 6Vリチウム電池（2CR5）をバッテリー室内の＋－表示に従って正しく入れてください。

- 電池を入れた時にフィルムカウンターが"00"のままで点滅している場合は一度裏ぶたを開けて、閉めなおしてください

3 カメラのバッテリー室カバーガイドピンにバッテリー室カバーの取り付け穴を合わせ、カバーを元通りにかぶせます。そして着脱ノブの "●" マークを "⊖" に合わせて閉めてください。





〈バッテリーチェック〉

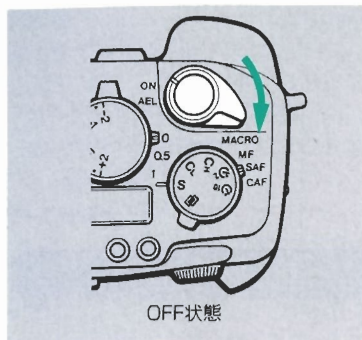
電池を入れた後、カメラを一度作動させ、表示パネルに"▯"（バッテリー警告マーク）が表示されなければ、電池の電圧は正常です。

〈電池の交換時期〉

表示パネルに"▯"マークが点灯したら、電池の交換時期です。メインスイッチを"OFF"にしてからカメラのバッテリー室カバーを開けて、新しい電池と交換してください。

- "▯"マークが点灯してからも撮影はできますが、すみやかに電池交換してください。電池容量が使用限界を超えると、表示パネルの"▯"マークが点滅または消灯し、カメラは作動しなくなります。
- 電池によってはその性質上、装着時一時的に電圧が低下し、"▯"マークが点灯することがあります。新品電池装着後すぐに"▯"マークが表示された場合、一度メインスイッチをOFFにし再度ONにしてください。この操作を行って"▯"マークが消えたらそのままお使いいただけます。

メインスイッチ



OFF状態



ON状態



AEL (AEロック)状態

電源の "OFF"、"ON" および "AEL" (AEロック) の切り替えを行います。

● 誤作動を防ぐためメインスイッチは、"カチッ" と音がするクリックの位置にとめてご使用ください。

OFF：赤マークが見えないとき

カメラの電源が切れ、OFFの状態になっています。カメラを使わないときは、不用意にシャッターが切れないようにメインスイッチをOFFにしてください。

"ON" マーク

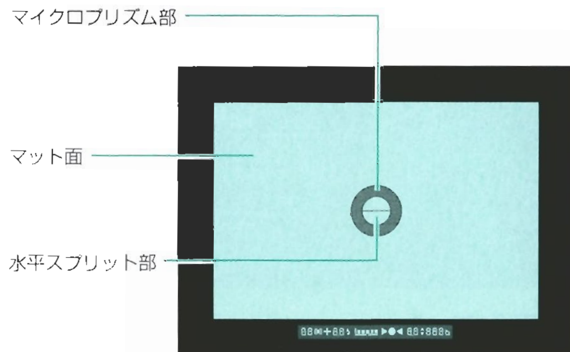
カメラの電源が入ります。
通常はこの位置でご使用ください。

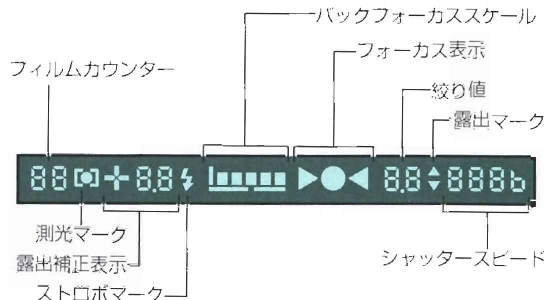
"AEL" マーク

逆光での撮影や、動く被写体を一定の露出で連続撮影するなど、露出を固定（AEロック）したいときに使います。
詳しくはP66をご覧ください。

ファインダー内表示および表示パネル

〈ファインダー内表示〉 この図は説明のために全情報を表示したもので実際の表示とは異なります。





ファインダー内表示は、次の操作をしたときに表示され、16秒間表示したあと自動的に消える省電設計になっています。

1. メインスイッチをONにしたとき。
2. メインスイッチONの状態で、露出チェックボタン、またはシャッターボタン半押しで表示されます。

また表示中にダイヤル等を切り替えたときは、表示はさらに16秒間延長されます。

〈ファインダー内表示〉

ファインダー内表示は、絞り、シャッタースピード、などの露出表示の他に、フォーカス表示、バックフォーカススケール等が表示される、情報集中ファインダーです。

シャッタースピード

シャッタースピードは1/6000秒から32秒が表示され"6000"は1/6000秒、"200"は1/200秒、"32""は32秒を表します。

絞り値

絞り優先オート撮影（Av）とマニュアル撮影（M）のときはセットした絞り値を、シャッター優先オート撮影（Tv）とプログラムオート撮影（P）のときはシャッタースピードに応じた絞り値を表示します。

フィルムカウンター

フィルムの撮影枚数を表示します。また、次のような表示もします。

- セルフタイマー時の残り時間表示（10秒～00まで）。
- A·B·C撮影（3コマ連続自動露出補正）時の作動順序表示
- 撮影フィルム終了表示

測光マーク

測光方式とAEロックの表示をします。

中央重点平均測光のとき：“[ ]”マークが点灯します。

スポット測光のとき：“[●]”マークが点灯します。

中央重点平均測光でAEロック：“[ ]”マークが点滅します。

スポット測光でAEロック：“[●]”マークの中の“●”が点滅します。

露出補正表示

露出補正ダイヤルを“0”以外の値にすると“補正値”が点滅表示されます。

ストロボマーク

TLAフラッシュシステム使用時、充電が完了すると“⚡”マークが点灯します。またTTL調光が的確に行われたときは撮影後に2秒間点滅します。

フォーカス表示

ピント合わせ状態を表示します。

“●”　合焦：被写体にピントが合っています。

“►”　後ピン：被写体よりも遠距離にピントが合っています。

“◄”　前ピン：被写体よりも近距離にピントが合っています。

“►◄”　測距不能

バックフォーカススケール

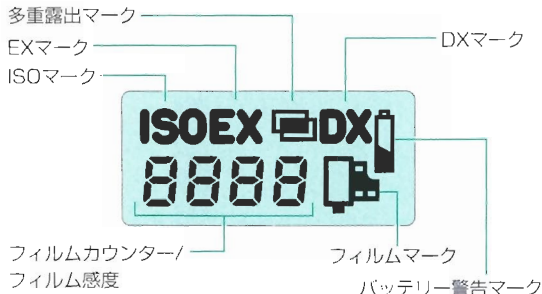
可動ボディの移動量を表示します。（P.34）

露出マーク

オート露出モード（Av、Tv、P）ではオート露出連動範囲外のオーバー“▲”、アンダー“▼”の表示、“M”“X”モードでは適正露出“⬍”、オーバー“▲”、アンダー“▼”を表示します。

〈表示パネル〉

この図は説明のために全情報を表示したもので実際の表示とは異なります。



フィルムカウンター／フィルム感度

"フィルムの撮影枚数"を表示します。また"アップボタン"、または"ダウンボタン"を押すと"フィルム感度"表示になります。DXフィルム使用時はDXで読みとった"フィルム感度"表示および"何枚撮り"のフィルムが入っているかの表示をします。

また、次のような表示もします。

- セルフタイマー作動残り時間
- バルブ撮影の経過時間
- A·B·C撮影時の撮影順序
- 多重露出のセット回数
- カスタム機能のセット状態
- 撮影フィルム終了時の表示

ISO·DXマーク

フィルム感度表示にしたとき、あるいはフィルム感度をセットするモードのときに表示されます。

- DXコードによる自動セット状態のときは、常に"DX"が表示されます。

EXマーク

DXフィルム使用時、何枚撮りのフィルムが入っているか表示するときに、枚数と一緒に表示されます。

バッテリー警告マーク

電池の交換時期を表示します。

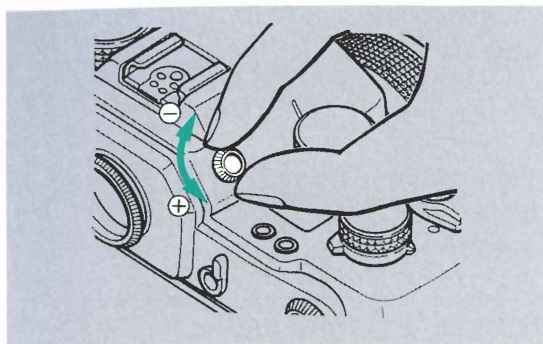
多重露出マーク

多重露出モードになっているときに表示します。

フィルムマーク

フィルムが入っているとき表示します。

視度調整のしかた



このカメラには視度調整機構が内蔵されています。視度調整つまみを回転させて、ファインダー内中央の円がはっきり見えるように調整してください。
調整範囲は+0.5～－2D（ディオプター）です。

● カメラの視度調整機構の範囲内で視度調整ができない場合は、別売りの視度補正レンズFMタイプをご利用ください。

視度調整範囲は表のようになります。

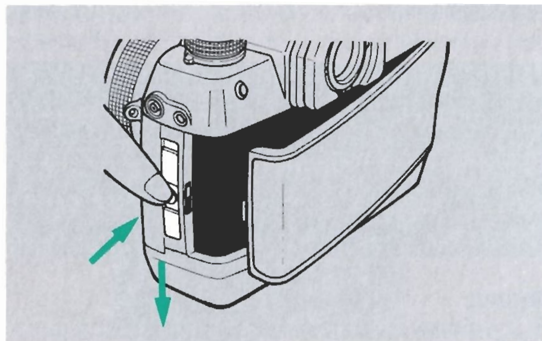
視度補正レンズ	調整範囲
なし	+0.5D～－2.0D
FM－3	－4.0D～－1.5D
FM+2	+1.0D～+3.5D

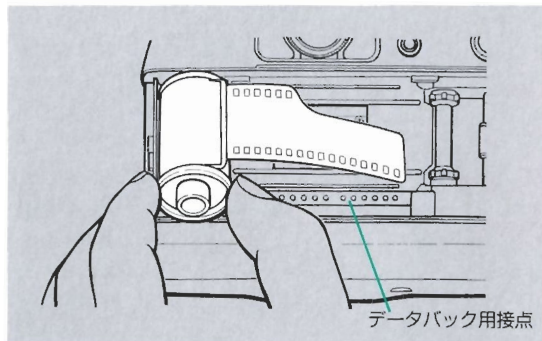
取付かた

カメラの接眼リングをはずして視度補正レンズをねじ込みます。

● 取り外した接眼リングはなくさないように保管してください。

フィルムの入れかた





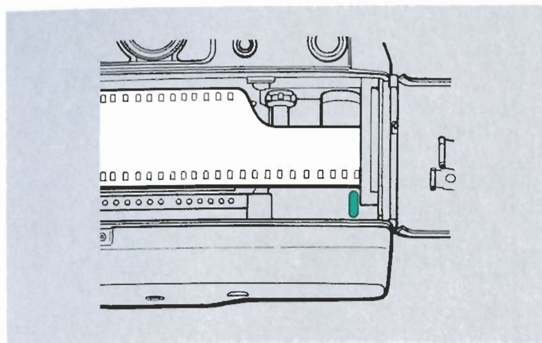
1 裏ぶたロック解除ボタンを押しながら裏ぶた開放レバーを下へスライドさせ、裏ぶたを開けます。

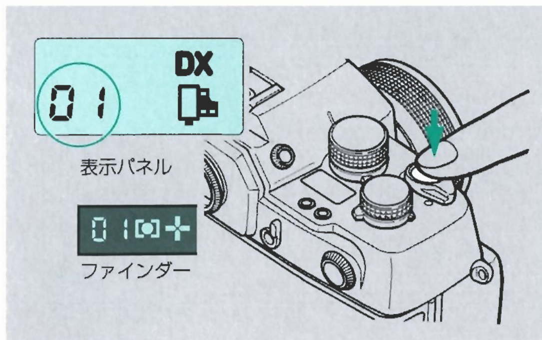
- フィルムを入れるときは、カメラの内側に入っている「保護シート」を必ず取りはずしてください。

2 図のように、フィルムパトローネ先端を斜めにして入れます。

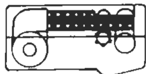
シャッター幕について
シャッター幕は精密部品ですので絶対に指で触れたりフィルムの先端でついたりしないでください。特にフィルムの先端がシャッター幕の上にある状態では、絶対にシャッターを切らないでください。

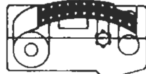
- DX接点やデータバック用接点は、むやみに触れたり、汚したりしないように注意してください。
- フィルムの出し入れは、直射日光を避けてください。





3 フィルムの先端をオレンジ色の " ▌" マークの位置まで引き出し、そのままスプールの上にのせます。
このとき図のようにフィルムが浮き上がらないようにしてください。

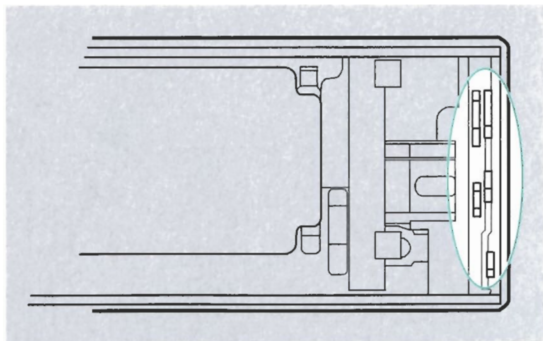




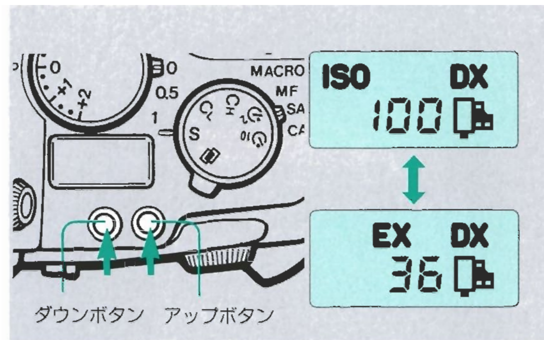

- フィルムの先が長く出ている場合は、長さを調節してください。

4 裏ぶたを閉め、メインスイッチを "ON" にしてシャッターボタンを押します。
フィルムが自動的に1コマ目まで空送りされ、フィルムカウンターは "01" になります。

- フィルムを入れると、表示パネルにフィルムマークが表示されフィルムが入っていることがわかります。
- 表示パネルのフィルムカウンターが "00" のままで点滅している場合は、フィルムが正しく送られていません。裏ぶたを開け、もう一度入れなおしてください。
- フィルムカウンターは表示パネルとファインダーの両方に表示されます。



裏ぶたの部品は、裏ぶたがカメラ本体接点についたときに自動的にセットされるよう精密にできています。特に○印部はむやみに動かさないでください。接触不良による作動不良や故障の原因になります。



〈何枚撮りのフィルムが入っているかの確認〉

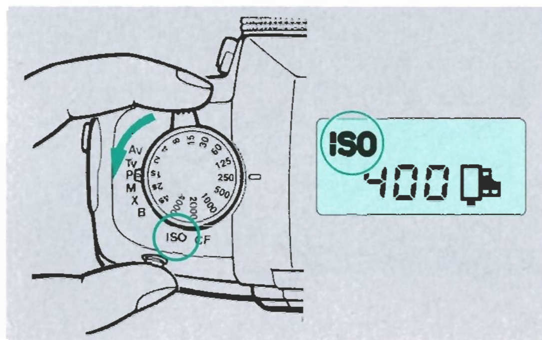
DXフィルム使用時はDXコードを読みとって、“何枚撮り”のフィルムがカメラに入っているか確認することができます。

メインスイッチ“ON”時に“アップボタン”または“ダウンボタン”を押すと、表示パネルに“フィルム感度”が表示されます。その表示中にどちらかのボタンを押すと、“何枚撮り”のフィルムが入っているかの表示になり、ボタンを押すごとに“フィルム感度”と交互に表示されます。

フィルム感度のセットおよび確認のしかた

フィルム感度のセットは、DXコード利用による自動セットと、任意の感度をセットする手動セットの2通りの方法があります。セットしたフィルム感度は表示パネルで確認できます。

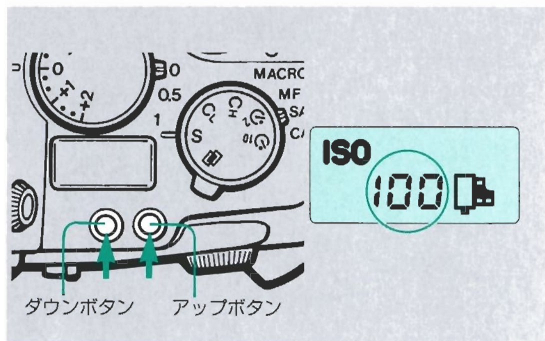
表示パネルに"DX"が表示されているときは、DXコードによる自動セットになります。DXコード付きのフィルムをご使用になる場合はそのままお使いください。表示パネルに"DX"が表示されていないときは、必ずフィルム感度を手動でセットしてください。

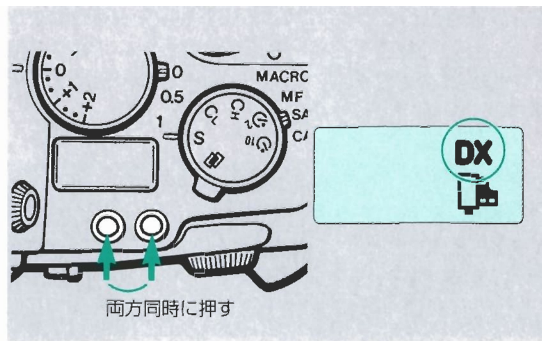


〈セットのしかた〉

1 メインスイッチを"ON"にして、露出モードロック解除ボタンを押しながら、露出モード切り替えレバーを回し、露出モード指標を"ISO"に合わせます。

表示パネルに"DX"、または"ISOとフィルム感度"が表示されます。



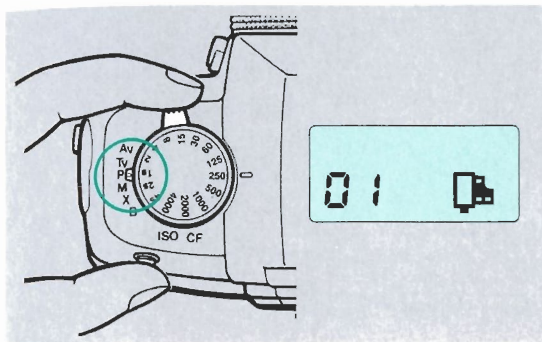


2 "アップボタン" または "ダウンボタン" を押して、フィルム感度を "DX" または合わせたい感度値にします。

DX ←→ 6 ←→ 8 ←→ 10 ←→ · ←→ 5000 ←→ 6400

- "アップボタン" を押すと、押すごとに1/3段階ずつ感度が高くなります。
- "ダウンボタン" を押すと、押すごとに1/3段ずつ感度が低くなります。
- "ボタンを押し続けるとフィルム感度が連続して変化します。

"アップボタン" と "ダウンボタン" を同時に押して、"DX" にセットすることもできます。





3 露出モード切り替えレバーを露出モードにしてください。これでセット完了です。

表示はフィルムカウンター表示に戻ります。

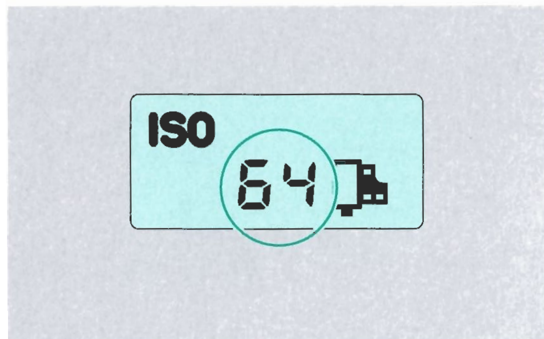
- セットしたフィルム感度は、次にセットし直すまで記憶されています。
- 露出モード切り替えレバーが "ISO"、"CF" のときは撮影できません。

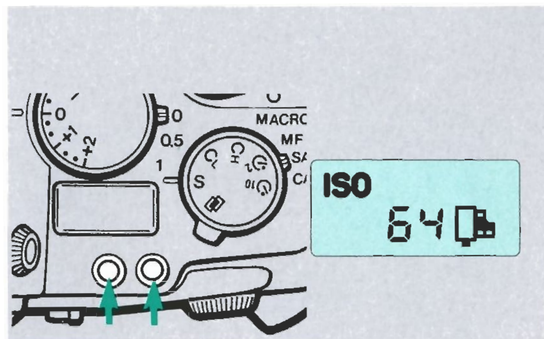
〈"DX" をセットしたとき〉

"DX" をセットしておくと、DXコード付きのフィルムを使うとき、カメラがフィルム感度を自動セットします。

DXコード付きフィルムはISO25～5000まで使用でき、"DX" のマークと感度は、フィルムの外箱に表示されています。

- DXコードのないフィルムは、ISO100に自動セットされます。





〈任意の感度をセットしたとき〉

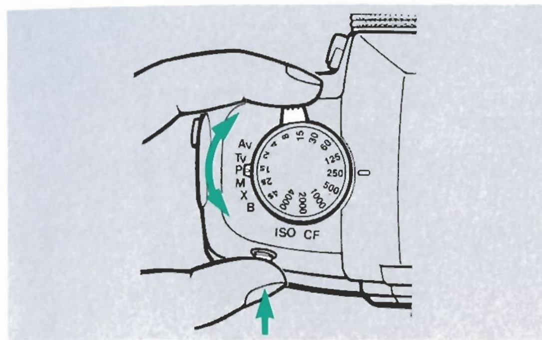
DXコードのないフィルムのフィルム感度セットや、DX表示と異なるフィルム感度に変えたい場合に使います。

- フィルム感度は6～6400の範囲で1/3段ごとにセットできます。
- 感度値をセットすると、DXコード付きフィルム使用時も手動セットした値になります。

〈フィルム感度の確認〉

撮影中にフィルム感度を確認したいときは、"アップボタン"または"ダウンボタン"を押すと、表示パネルにその時セットされているフィルム感度、またはDXコードで読みとったフィルム感度が表示されます。

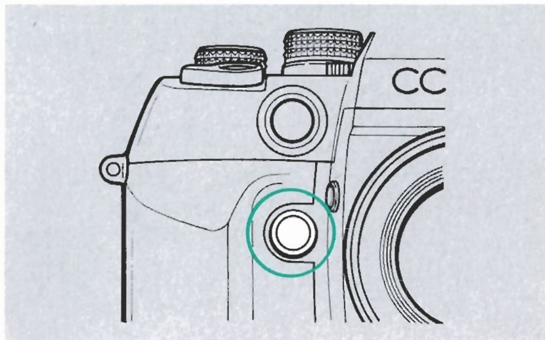
露出モード切り替えレバー



露出モード切り替えに使用します。**露出モードロック解除ボタンを押しながら露出モード切り替えレバーを回し、露出モード指標をそれぞれの位置に合わせてください。**
また、フィルム感度のセット"ISO"、カスタム機能のセット"CF"のときにも使用します。

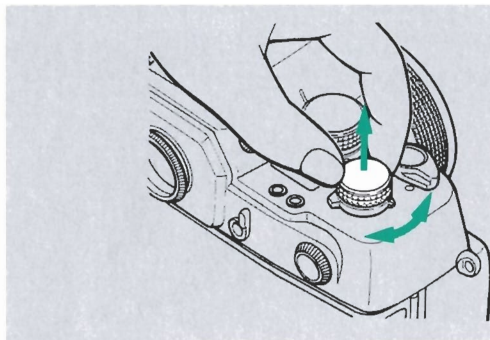
各露出モードの詳細は、P53~60をご覧ください。

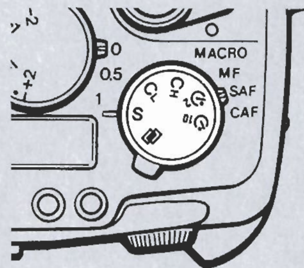
露出チェックボタン



メインスイッチがONのとき、露出チェックボタンを押すとファインダー内表示が点灯し、露出、ピント等を確認することができます。またシャッターボタンを半押しすることでも確認することができます。

ドライブモード切り替えダイヤル





撮影目的に応じて次のドライブモードが選べます。

ドライブモード切り替えダイヤルを引き上げながら回し、マークを指標に合わせクリックの位置に落とし込んでください。（“▣”の場合は上がったままです。）

“S”……1コマ撮影

カメラのシャッターボタンを押すごとに1コマ分撮影され、次の巻き上げが行われて停止します。

“CH”、“CL”……連続撮影

カメラのシャッターボタンを押している間、“CH”は最高約5コマ／秒、“CL”では約3コマ／秒の連続撮影ができます。（撮影コマ速度は、シャッタースピードやフィルム感度、データバックのコマ間写し込みあり／なし、使用する電池の状態などにより変化します。）

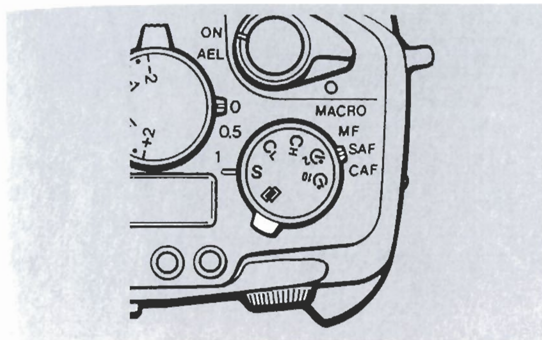
“⏲2”、“⏲10”……セルフタイマー撮影

“⏲2”は2秒“⏲10”は10秒のセルフタイマー撮影になります。詳しくはP79をご覧ください。

“▣”……多重露出撮影

多重露出撮影をするときにセットします。
詳しくはP76をご覧ください。

フォーカスモード切り替えレバー



撮影目的に応じて、次のフォーカスモードを選ぶことができます。
フォーカスモード切り替えレバー動かして、指標をフォーカスモードに合わせます。

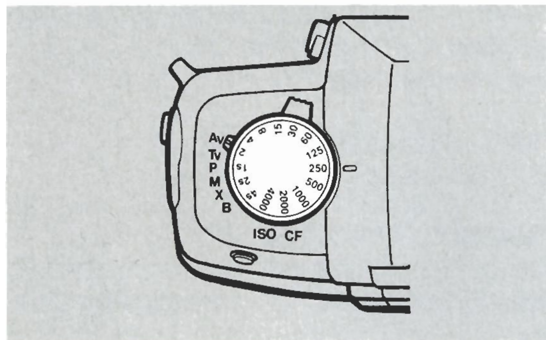
"SAF" ……シングル・オートフォーカス
AFでピント合わせを行い一度ピントが合うと、その位置でピントが固定します。
ピント優先のモードです。

"CAF" ……コンティニュアス・オートフォーカス
AFで連続してピントを合わせ続けます。
シャッターチャンス優先のモードです。

"MF" ……マニュアルフォーカス
ピント合わせは手動になります。

"MACRO" ……マクロ撮影
取り付けたレンズの最短撮影距離よりもさらに近づいて撮影することができます。ピント合わせは手動になります。

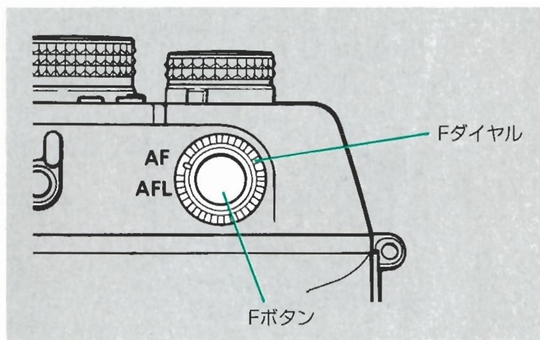
シャッタースピードダイヤル



撮影フィルムへの露光時間を調節するもので、"Tv"（シャッター優先オート）および"M"（マニュアル露出）のとき使用します。
シャッタースピードは、4S（4秒）～4000（1/4000秒）の範囲で１段ごとにセットできます。

● シャッタースピードダイヤルはクリックの位置に止めてご使用ください。

フォーカスボタン機能切り替えダイヤル(Fダイヤル)/フォーカスボタン(Fボタン)



FダイヤルでＦボタンの機能を切り替えます。また、Ｆダイヤルの切り替え位置により、各フォーカスモード時のピントの合わせかたが変わります。詳しくはP36をご覧ください。

カメラの構えかた

ピントが合った美しい写真を撮るためには、カメラをしっかり構えることが大切です。ピントが悪い写真の多くはカメラぶれが原因です。

カメラは横位置の他、状況により縦位置で構えますが、いずれも自分にあった姿勢を研究してください。
建物や木立などを利用して体やカメラを支えることも効果的な方法です。

● 縦位置に構えたときは、AF補助発光部を手でかくさないようにご注意ください。



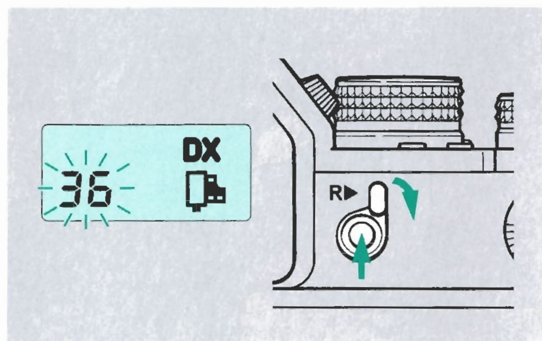


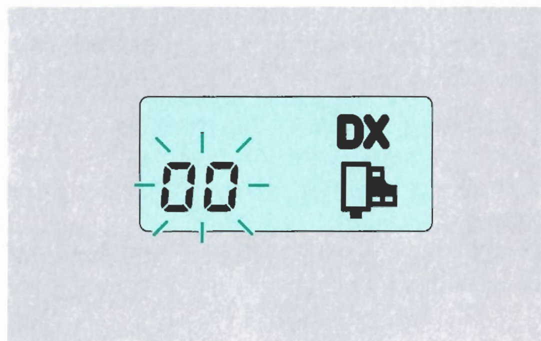
① 脇をしめてカメラを安定させる。

② 写す瞬間、呼吸を止める。

③ 手にあまり力を入れず、静かにシャッターボタンを押す。

フィルムの巻き戻し





撮影フィルムを全部写し終えると、巻き上げが止まり、表示パネル・フィルムカウンター表示の上桁、下桁が交互に点滅します。

1 メインスイッチONの状態で、巻き戻しロック解除ボタンを押しながら、巻き戻しレバーを矢印の方向に回してください。フィルムの巻き戻しが始まります。
フィルムカウンターは減算表示され、巻き戻しが終了するとモーターが停止しカウンターは〝00〟の点滅表示になります。

- 巻き戻しが始まったときは巻き戻しレバーから必ず手を離してください。巻き戻しレバーは自動的に元に戻ります。

2 モーターが停止し、フィルムカウンターが〝00〟になったのを確認してから裏ぶたを開け、フィルムを取り出してください。

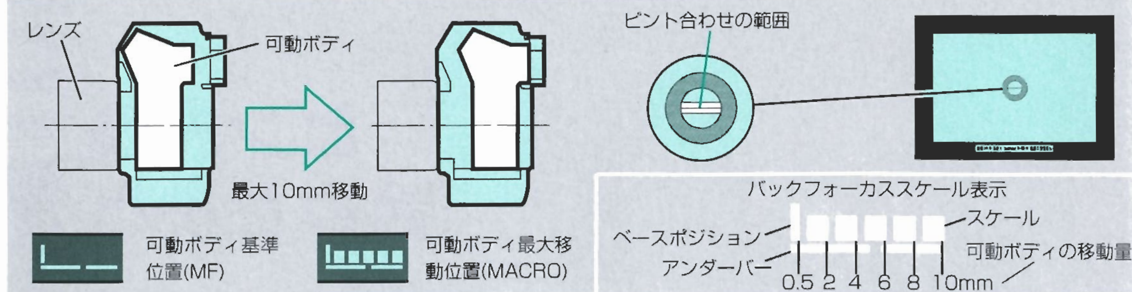
- フィルムの取り出しは直射日光を避けてください。
- フィルムの途中からの巻き戻しも1、2の順で行ってください。
- 巻き戻し後は、必ずフィルムを取り出してください。巻き戻し後は、一度裏ぶたを開けるまでカメラは作動しません。

ピントの合わせかた

このカメラのピント合わせは、自動で行うオートフォーカス（AF）と手動で行うマニュアルフォーカス(MF) があります。オートフォーカスには、"SAF"（シングル・オートフォーカス）と、"CAF"（コンティニュアス・オートフォーカス）があります。
被写体に応じて使い分けると、よりよい写真撮影ができます。

オートフォーカス（AF）によるピント合わせ

オートマティックバックフォーカシング（ABF）方式のしくみとAFの機能



〈1. ABF方式のしくみとバックフォーカススケール〉

このカメラは、既存のコンタックス一眼レフ用カールツァイスレンズがそのまま使用できるオートフォーカス(AF)カメラです。
AF時は、図のように可動ボディを後ろに移動してピント合わせを行う方式です。レンズの距離リングセット位置より近距離側をオートフォーカスでピント合わせを行います。そのときの可動ボディの移動量を、ファインダー内バックフォーカススケールに図のように表示します。
可動ボディの最大移動量は10mmです。

〈2. ABF方式の撮影範囲〉

オートフォーカス撮影は、レンズの距離リングを"∞"にセットして行います。そのときのオートフォーカス撮影距離範囲は、表のA欄の範囲になります。
レンズの距離リングを∞より近距離側にセットすると、セットした距離より近距離側をオートフォーカスでピント合わせします。
レンズの距離リングを最短撮影距離にセットするとオートフォーカス撮影距離範囲は表のB欄の範囲になります。
レンズ自身の最短撮影距離よりさらに近距離の撮影ができます。

レンズ名	フロート方式	レンズの最短撮影距離 (m)	A	B
			レンズの距離リングを "∞" にセットしたときのAF撮影距離範囲 (m)	レンズの距離リングを最短撮影距離にセットしたときのAF撮影距離範囲 (m)
F-D16mmF2.8		0.3	∞~0.13	0.3~0.13
D15mmF3.5	○	0.16	∞~0.15	0.16~0.15
D18mmF4	○	0.3	∞~0.13	0.3~0.13
D21mmF2.8	○	0.22	∞~0.18	0.22~0.16
D25mmF2.8		0.25	∞~0.17	0.25~0.15
D28mmF2	○	0.24	∞~0.2	0.24~0.17
D28mmF2.8		0.25	∞~0.18	0.25~0.16
D35mmF1.4	○	0.3	∞~0.25	0.3~0.2
D35mmF2.8		0.4	∞~0.23	0.4~0.2
PC-D35mmF2.8	○	0.3	∞~0.26	0.3~0.21
T45mmF2.8		0.6	∞~0.32	0.6~0.26
P50mmF1.4		0.45	∞~0.38	0.45~0.27
P50mmF1.7		0.6	∞~0.38	0.6~0.3
P85mmF1.2	○	1.0	∞~0.85	1.0~0.6
P85mmF1.4		1.0	∞~0.9	1.0~0.6
S85mmF2.8		1.0	∞~0.96	1.0~0.6
P100mmF2		1.0	∞~1.2	1.0~0.65
S100mmF3.5		1.0	∞~1.3	1.0~0.7
P135mmF2		1.5	∞~2.1	1.5~1.0
S135mmF2.8		1.6	∞~2.1	1.6~1.1
S180mmF2.8	○	1.4	∞~3.6	1.4~1.2
Apos200mmF2		1.8	∞~6.0	1.8~1.5
T-T200mmF3.5		1.8	∞~4.5	1.8~1.5
T-T200mmF4		1.5	∞~4.5	1.5~1.4

レンズ名	フロート方式	レンズの最短撮影距離 (m)	A	B
			レンズの距離リングを "∞" にセットしたときのAF撮影距離範囲 (m)	レンズの距離リングを最短撮影距離にセットしたときのAF撮影距離範囲 (m)
T-Apo300mmF2.8	○	3.5	∞~10	3.5~3
T-T300mmF4		3.5	∞~10	3.5~3
M-P60mmF2.8		0.24	∞~0.51	0.24~0.24
M-P60mmF2.8C		0.27	∞~0.51	0.27~0.25
M-P100mmF2.8	○	0.41	∞~1.3	0.41~0.4
V-S28mmF3.3 ~85mmF4		0.6	28:∞~0.3 50:∞~045 85:∞~0.9	0.6~0.25 0.6~0.3 0.6~0.45
V-S35mm ~70mmF3.4		0.7	35:∞~0.3 70:∞~0.55	0.7~0.25 0.7~0.4
V-S35mmF3.3 ~135mmF4.5		1.3	35:∞~0.3 70:∞~0.65 135:∞~2.0	1.3~0.3 1.3~0.55 1.3~0.95
V-S40 ~80mmF3.5		1.2	40:∞~0.35 80:∞~0.8	1.2~0.35 1.2~0.65
V-S70mm ~210mmF3.5		1.8	70:∞~0.8 120:∞~1.8 210:∞~4.7	1.8~0.7 1.8~1.1 1.8~1.5
V-S80mm ~200mmF4		1.0	80:∞~0.9 140:∞~2.5 200:∞~4.5	1.0~0.7 1.0~0.9 1.0~0.95
V-S100mmF4.5 ~300mmF5.6		1.5	100:∞~1.5 200:∞~5.0 300:∞~10	1.5~0.9 1.5~1.3 1.5~1.45

緑色の数字：マクロモード時の最短撮影距離

1. フロート方式のレンズ

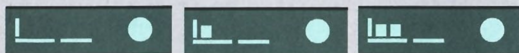
① ②



2. ズームレンズ

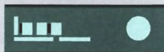
① VS28～85の場合

[28mm側] ベースポジションの範囲　[50mm付近] 1スケール以内　[85mm側] 2スケール以内



② その他のズームレンズの場合

3スケール以内



■AF使用で注意のいるレンズ

1.フロート方式のレンズ

1. **焦点距離35mm以下のフロート方式のレンズ**：レンズの距離リングを"∞"にセットして、撮影距離は∞～3mの範囲で使用してください。レンズの距離リングを近距離側にセットしたときは、ファインダー内表示のバックフォーカススケールの表示がベースポジションの範囲でご使用ください。それより近距離でも撮影はできますが、画面周辺の画質が低下します。
2. **焦点距離85mm以上のフロート方式のレンズ**：レンズの距離リングを"∞"にセットして、撮影距離は∞～5mの範囲で使用してください。レンズの距離リングを近距離側にセットしたときは、ファインダー内表示のバックフォーカススケールの点灯ができるだけ少ない範囲で使用してください。レンズの像性能を維持するためにスケールの点灯は3つ以内を目安にしてください。

2.ズームレンズ

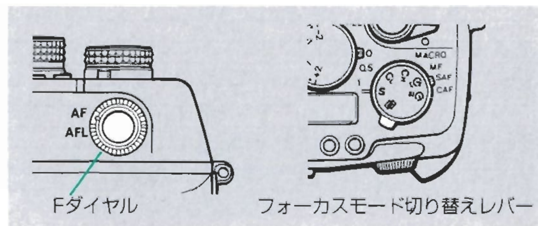
① **VS28～85の場合**：レンズの距離リングを"∞"にセットして、撮影距離は∞～3mの範囲で使用してください。レンズの距離リングを近距離側にセットしたときは、ファインダー内表示のバックフォーカススケールの点灯が左図の範囲で使用してください。

2. **その他のズームレンズの場合**：ファインダー内表示のバックフォーカススケールの点灯が3つ以内で使用してください。

ズームレンズはズーミングをしてから、オートフォーカスによるピント合わせをしてください。ピント合わせ後、ズーミングするとピントがずれます。

● 上記の条件以外でも撮影できますが、画面周辺の像性能の低下を防ぐため、できるだけ小絞りで撮影することをおすすめします。

〈3. フォーカスボタン機能切り替えダイヤル（Fダイヤル）とフォーカスモードの関係〉

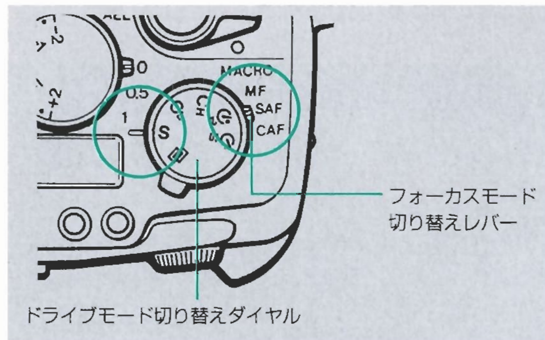


Fダイヤルを切り替えると、各フォーカスモードでのピント合わせは次の表のようになります。

フォーカスモード / Fダイヤル	SAF（シングル・オートフォーカス）	CAF（コンティニュアス・オートフォーカス）※動体予測機能付	MF（マニュアル・フォーカス）	MACRO（マクロ）
AFL	シャッターボタン半押しでAFが作動して、一度ピントが合うとその位置でピントが固定されます。測距不能でシャッターが切れないとき、Fボタンを押すとシャッターを切ることができます。	シャッターボタン半押しでカメラが連続的にピントを合わせ続けます。Fボタンを押すとピントが固定されます。	レンズの距離リングを回してピント合わせを行います。AFは作動しません。	マクロはマニュアルフォーカスとなります。レンズの距離リングを回してピント合わせを行います。AFは作動しません。
AF	Fボタンで AFが作動します。（シャッターボタンではAFは作動しません。）一度ピントが合うとその位置でピントが固定されます。Fボタンを離すと可動ボディがその位置で停止します。フォーカスロックを多用される場合、また連続的にフォーカスロックしたい場合に使用します。	Fボタンを押すと、カメラが連続的にピントを合わせ続けます。（シャッターボタンではAFは作動しません。）Fボタンを離すと可動ボディがその位置で停止します。フォーカスロックを多用される場合、また連続的にフォーカスロックしたい場合に使用します。	レンズの距離リングを回してピント合わせを行います。Fボタンを押し続けると、AFが作動して一度ピントが合うとその位置でピントが固定します。Fボタンを離すと、AFが解除され可動ボディが基準位置に戻ります。マニュアルフォーカスが主体でときどきＡＦを使用するときに、このモードを使用します。	

※動体予測について

このカメラは、被写体がほぼ同じ速度で近づいてくる場合、または遠ざかっていく場合にシャッターが切れる直前に正しいピントが得られるように、可動ボディの位置を制御してピント合わせを行う機能を持っています。



〈4. ドライブモード（S、CL/CH）とフォーカスモード（SAF、CAF）の関係〉

各ドライブモード時のAFによるピント合わせは次のようになります。

	フォーカスモード "SAF"	フォーカスモード "CAF"
S (1コマ撮影)	AF操作(シャッターボタン半押し、またはFボタンを押す)でピントを合わせフォーカスロックする。1コマ撮影	AF操作中(シャッターボタン半押し、またはFボタンを押す)、連続ピント合わせをします。1コマ撮影 ● ケーブルスイッチLを使って撮影すると、ピントが合わない場合があります。
CL/CH (連続撮影)	AF操作(シャッター半押し、またはFボタンを押す)でピントを合わせ、フォーカスロックします。連続撮影時は最初の写真でピントを固定しての連続撮影になります。	AF操作中(シャッター半押し、またはFボタンを押す)連続ピント合わせをします。連続撮影時は1コマごとにピントを合わせ続けての連続撮影になります。 ● ケーブルスイッチLを使って撮影すると、最初の写真はシャッターチャンスを優先し、次の写真より1コマごとにピントを合わせ続けての連続撮影になります。

〈5. その他〉

AF使用時のご注意

- 開放Ｆ値が5.6より暗いレンズ使用時、またはムターや接写アクセサリーを使用して、実絞りが5.6より暗くなるときはAFを使用してのピント合わせはできません。このようなときは、マニュアルフォーカスでピント合わせを行ってください。
- ミロター500mmF4.5、ミロター1000mmF5.6、N-ミロターで、AFを使用してのピント合わせはできません。

AF補助光について

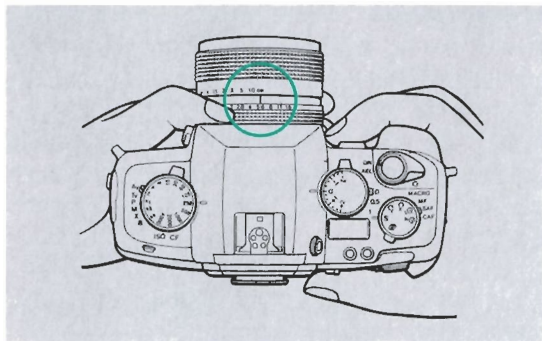
被写体が暗いときやコントラストが低くピントが合わせにくい場合は、自動的にAF補助光を被写体に照射してAFの精度を高める機構になっています。
AF補助光の有効距離は約５ｍです。

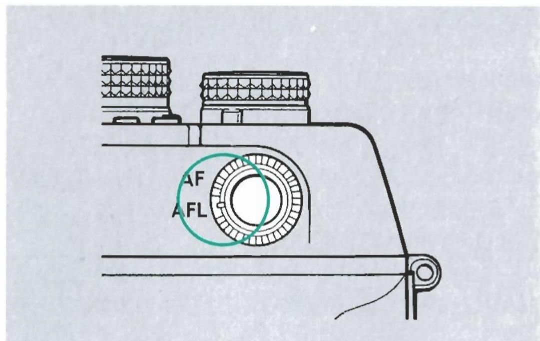
AFの苦手な被写体

オートフォーカス機能を使っても、次のような被写体はピント合わせが難しいので、ファインダー内に測距不能マーク“▶ ◀”が点滅するときがあります。このようなときは、フォーカスロックを利用して、等距離にある別の被写体に一度ピントを合わせてから撮影を行うか、マニュアルフォーカスにして、手動でピント合わせを行ってください。

①非常に明るいかまたは非常に暗い被写体。
②被写体のコントラストが極度に低いとき。
③水平スプリット部やその周辺に太陽光など強い光源があるとき。
④水平スプリット部内に極度に距離の違う２つ以上の被写体が共存するとき。
⑤横線のみの被写体、または縦線の繰り返しパターンが続く被写体。
⑥NDフィルターや偏光フィルターなどにより、被写体からの光量が極端に少なくなった場合。

撮影目的に応じたオートフォーカス設定



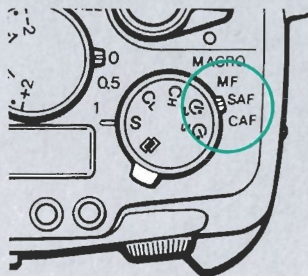


〈1.一般的なオートフォーカス撮影〉

ご使用のレンズによりオートフォーカス撮影ができる範囲が変わります。P35の表をご覧になりご使用ください。

1 レンズの距離リングを回し、距離目盛を"∞"にセットします。

2 Fダイヤルを"AFL"にセットします。





3 フォーカスモードを選びます。

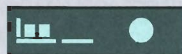
"SAF" のとき

1 カメラのフォーカスモード切り替えレバーを "SAF" にセットします。

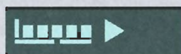
2 ピントを合わせたい被写体に水平スプリット部を向け、シャッターボタンを半押しします。
ピント合わせが行われ、ピントが合うとファインダー内合焦マーク "●" が点灯し、電子音が "ピピッ" と鳴りピントが固定（フォーカスロック）します。

3 そのままシャッターボタンを押し込んで撮影してください。

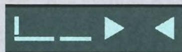
1 合焦



3 後ピン：距離リングを近距離側に回してください。

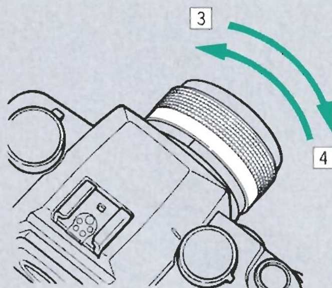


2 測距不能



4 前ピン：距離リングを遠距離側に回してください。





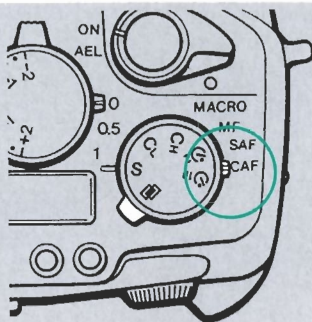
● バックフォーカススケールとフォーカス表示が図3、4のように点灯しているときは、AF撮影範囲外です。3のときは"▶"方向（近距離側）に4のときは"◀"方向（遠距離側）に距離リングを回してください。ピントが合うと合焦マークが点灯し、シャッターを切ることができます。

● "▶ ◀"（測距不能マーク）が点滅するときはAFでピント合わせができず、シャッターを切ることができません。そのときはフォーカスロック（P45）を利用するかフォーカスモードを"MF"にして手動でピント合わせをしてください。

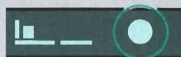
● 被写体が水平スプリット部からはずれるときは、フォーカスロック（P45）をご利用ください。

● ドライブモードが"CL, CH"で連続撮影するときは、最初の写真でピントが固定し、そのピント位置での連続撮影になります。

● 合焦マーク"●"が点灯しなくてもシャッターチャンス優先で撮影したいときは、Fボタンを押しながらシャッターボタンを押すと、シャッターを切ることができます。







"CAF" のとき

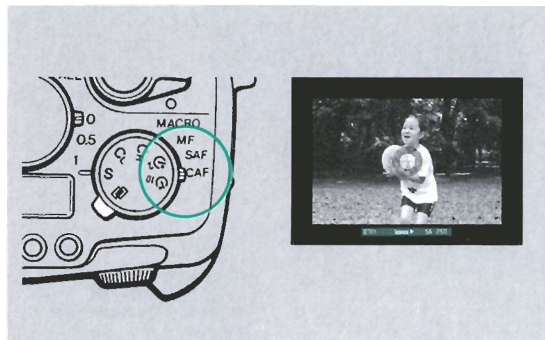
1 フォーカスモードを "CAF" に、セットします。

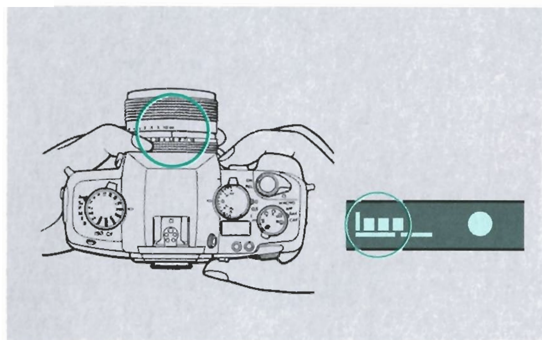
2 ピントを合わせたい被写体に水平スプリット部を向け、シャッターボタンを半押しします。
シャッターボタンを半押ししている間、連続してピントを合わせ続けます。

シャッターボタン半押し中にFボタンを押すと、フォーカスロックします。このとき、バックフォーカススケールのアンダーバーが点滅します。

3 合焦マーク "●" を確認し、シャッターボタンを押して撮影してください。

- 合焦マークが点灯しても電子音は鳴りません。
- ドライブモードが "CL, CH" のときは、ピントを合わせ続けながらの連続撮影になります。
- 被写体の動きや変化により、ピント合わせが連続撮影に追従できない場合があります。





"CAF" の便利な使いかた

距離リングを "∞" に合わせてAF測距する場合、望遠レンズではAF撮影範囲が狭くなります。このような場合以下のようにするとAF撮影範囲を移動でき、動く子供の連続写真やスポーツ写真のとき便利です。

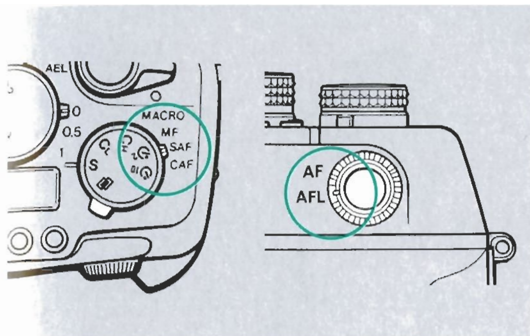
1 カメラのフォーカスモードを "CAF" にセットします。

2 ファインダー内水平スプリット部を被写体に向け、シャッターボタンを半押しします。

3 レンズの距離リングを回し、バックフォーカススケールがアンダーバーの中央にくるようにあらかじめピントを合わせます。その後、被写体が前後に動いてもAFでピントを合わせ続けます。

4 シャッターボタンを押して撮影します。

- 被写体の距離がレンズの距離リングでセットした距離より遠いときは、オートフォーカス範囲外になります。レンズの距離リングを遠距離側に回し、AF撮影範囲を移動するとAF撮影ができます。



フォーカスロック（Fダイヤルが"AFL"のとき）

オートフォーカス（AF）撮影のとき、構図によって、ピントを合わせたい被写体が水平スプリット部からはずれる場合には、次のようにピントを固定（フォーカスロック）して撮影します。

SAF（シングルオートフォーカス）のとき

1 フォーカスモードを"SAF"に、Fダイヤルを"AFL"にセットします。



2 ピントを合わせたい被写体に水平スプリット部を向け、シャッターボタンを半押しします。ピント合わせが行われ、ピントが合うとファインダー内合焦マーク"●"が点灯し、フォーカスロックされます。

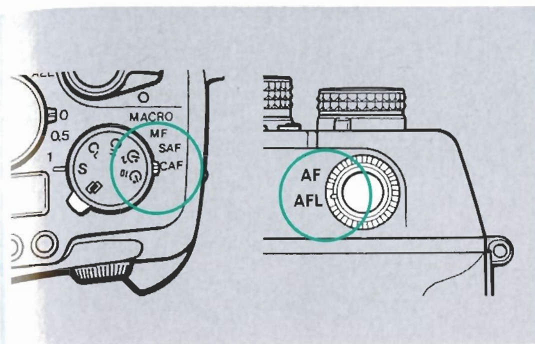


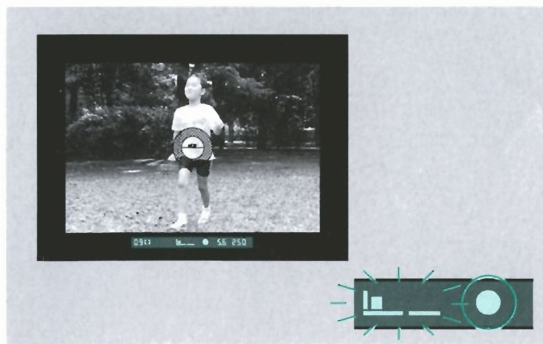




3 シャッターボタンを半押ししたまま写したい構図にカメラを戻し、さらにシャッターボタンを押し込んで撮影します。

- 半押ししている間はピントはロックされていますので、カメラの向きを変えてもピントは変わりません。
- フォーカスロックは、シャッターボタンから指を離すと解除されます。





CAF（コンティニュアス・オートフォーカス）のとき

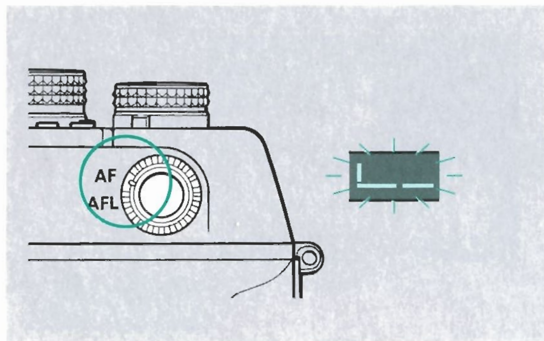
1 フォーカスモードを“CAF”に、Fダイヤルを“AFL”にセットします。

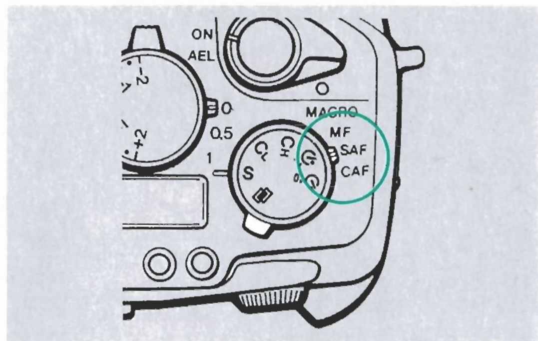
2 ピントを合わせたい被写体に水平スプリット部を向け、シャッターボタンを半押しすると半押ししている間、連続してピントを合わせ続けます。ファインダー内合焦マーク“●”の点灯を確認して、Fボタンを押すと押したところでピントが固定します。

- フォーカスロック時はファインダー内バックフォーカススケールのアンダーバーが点滅します。

3 Fボタンを押したまま写したい構図にカメラを戻し、さらにシャッターボタンを押し込んで撮影します。

- Fボタンを押している間はピントはロックされていますので、カメラの向きを変えてもピントは変わりません。
- フォーカスロックは、Fボタンから指を離すと解除されます。





〈2.オートフォーカスとシャッターを別々のボタンで行いたいとき〉

1 Fダイヤルを"AF"にセットします。
バックフォーカススケール表示のアンダーバーが点滅します。

2 フォーカスモードをセットし、次のようにして撮影します。

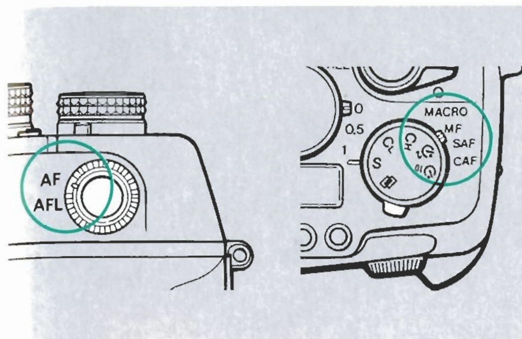
フォーカスモードが"SAF"のとき

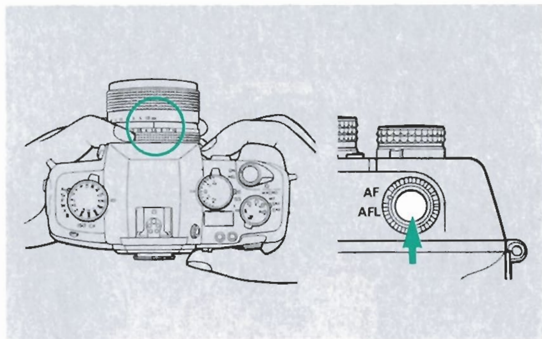
風景や静物を、ケーブルスイッチLを使ってじっくりと撮影するときなどにこのモードにします。
ファインダー内水平スプリット部を被写体に向けFボタンを押すと、カメラが自動的にピント合わせを行い、ピントが合うとフォーカスロックされます。ピントが合ったらFボタンから指を離してください。可動ボディがその位置で停止します。次に写したい構図に戻しケーブルスイッチLのボタンを押して撮影します。

フォーカスモードが"CAF"のとき

動きのある被写体を撮影するとき、ピント合わせをFボタンで、シャッター動作をシャッターボタンでそれぞれ確実に行いたいときにこのモードにします。

- Fボタンを押している間ピントを合わせ続けます。指を離すと可動ボディがその位置で停止します。





〈3. マニュアルフォーカス主体の撮影時、ワンショットAFとして使いたいとき〉

1 Fダイヤルを "AF" にセットします。

2 フォーカスモード切り替えレバーを "MF" にセットします。

可動ボディが基準位置にセットされます。

3 レンズの距離リングを回してピントを合わせてシャッターを切ります。

4 マニュアルフォーカス撮影中に "ワンショットAF" を使用するときは距離リングを "∞" にセットし、Fボタンを押すと、押している間 "SAF" (シングルオートフォーカス) でピント合わせを行います。

5 Fボタンを押したままシャッターを切ります。

- Fボタンから指を離すと可動ボディが元の基準位置へ戻りピントがずれますので、ご注意ください。セルフタイマー使用時は、セルフタイマー撮影終了後に可動ボディが基準位置に戻ります。
- マニュアルフォーカスで撮影中に距離リングの位置をそのままにしてFボタンでAFすると、距離リングの位置より近距離でのAF撮影になります。

マニュアルフォーカスによるピント合わせ





フォーカスモード切り替えレバーを"MF"にセットします。可動ボディが基準位置にセットされます。
ピント合わせは、手動でレンズの距離リングを回して行います。

このカメラはフォーカシングスクリーンFW-1（水平スプリット／マイクロプリズム式）が標準装備されています。ピント合わせは、ファインダー中央の水平スプリット部、マイクロプリズム部、または周辺のマット面で行います。

※フォーカシングスクリーンは交換することができます。詳しくはP95をご覧ください。

〈水平スプリット部の場合〉

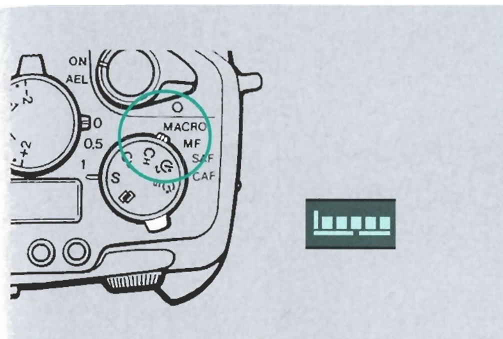
ファインダーをのぞきながら距離リングを回して、中央にある上下に分割された像が一致するようにします。ピントが合っていないときは、スプリット部の像がズレます。

〈マイクロプリズム部、またはマット面の場合〉

距離リングを回して、マイクロプリズム部か周辺のマット面の像がはっきり見えるようにします。ピントが合っていないときは、マイクロプリズム部ではギザギザに、マット面ではボケます。

- 暗いレンズを使用したときや、高倍率での接写時には、ピントが合わせにくくなることがあります。このときは周囲のマット面でピントを合わせてください。

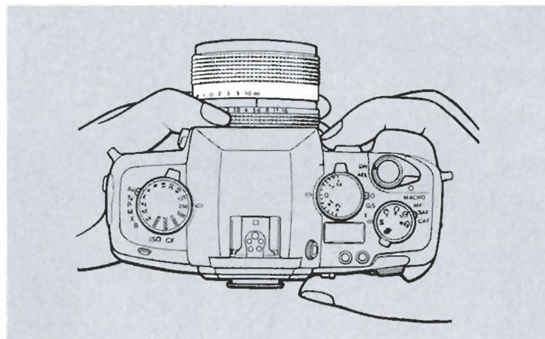
マクロモードでのピント合わせ



このモードにすると、10mmの接写リングを取り付けたものとおなじ働きになります。取り付けたレンズの最短撮影距離よりも、さらに近づいて撮影することができます。**ピント合わせは手動で行うマニュアルフォーカスになります。**

ズームレンズの場合はズームしてからピント合わせを行ってください。

1 フォーカスモード切り替えレバーを "MACRO" にセットすると、可動ボディが最大移動位置（基準位置より10mm移動）にセットされ、ファインダー内のバックフォーカススケールが図のように表示されます。



2 距離リングを回してピント合わせを行います。

- マクロモード時の最短撮影距離はP.35をご覧ください。
- 画面周辺の像性能の低下を防ぐため、できるだけ小絞りで撮影してください。
- マクロレンズではレンズの繰り出し量が多いため、マクロモードに設定してもさらに近づいて撮影することはできません。

撮影操作と応用テクニック

露出モードの選択

撮影目的や用途に応じて、次の露出モードが選べます。

Av：絞り優先オート

あらかじめ絞りをセットすることにより、被写体の明るさに応じてシャッタースピードを自動的にコントロールし、適正露出を得ます。被写界深度を利用しての撮影に適しています。

Tv：シャッター優先オート（MMレンズ装着時のみ）

あらかじめシャッタースピードをセットすると、被写体の明るさに応じて絞りが自動的に選定され、適正な露出の写真が撮れるようになっています。動きのあるスポーツなどの撮影に適しています。

P：プログラムオート（MMレンズ装着時のみ）

あらかじめプログラムされている絞りとシャッタースピードの組み合わせの中から、被写体の明るさに適した組み合わせをカメラが自動的に選びます。
露出を気にする必要がないので作画に専念したり、シャッターチャンスに専念できます。

M：マニュアル露出

絞りとシャッタースピードを撮影意図や目的に合わせて任意にセットし、撮影する方法です。また意図的に露出オーバーやアンダーにすることも簡単にできます。

X：ストロボ撮影

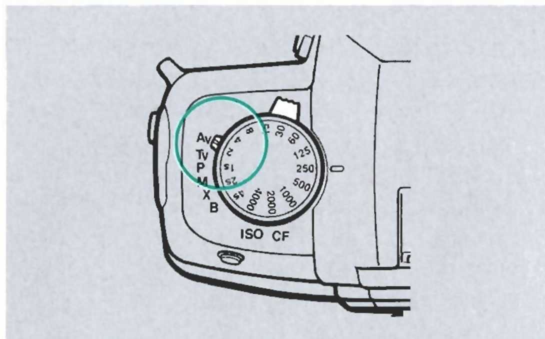
当社専用ストロボ連動接点のない、X接点のみの汎用ストロボを使用するときに、この位置にします。
詳しくは、「TLAストロボ以外のX接点を利用した他のストロボによる撮影」（P75）をご覧ください。

B：バルブ

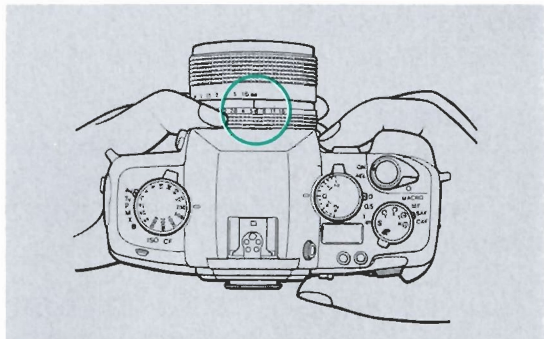
長時間露光を必要とする夜間撮影や天体撮影を行うときに使用します。

- AEレンズ装着のときは、"Tv"、"P" で撮影することはできません。"Tv"、"P" にセットされていても、実際の撮影は "Av" で行われます。
- レンズ未装着のときは、"Tv"、"P" にセットされていても自動的に "Av" になります。

絞り優先オート撮影 [Av]



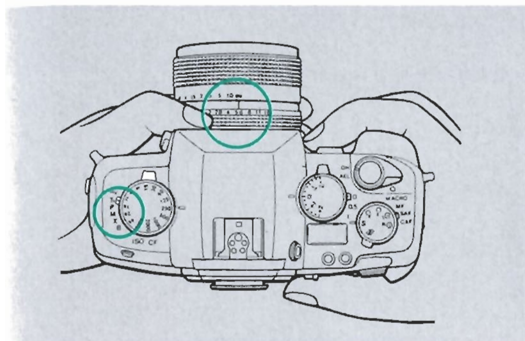
1 露出モード切り替えレバーを "Av" にセットします。

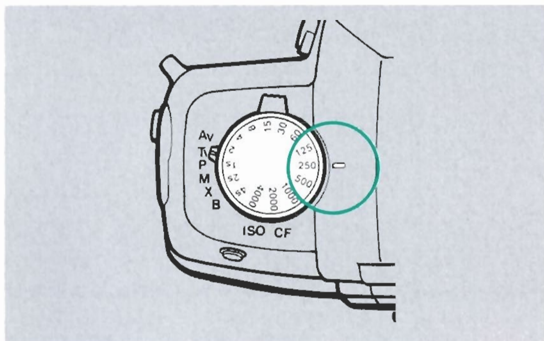


2 絞りをセットし、撮影します。

レンズの絞りリングを回して絞りをセットすると、絞りに応じた適正シャッタースピードが自動セットされ、ファインダー内に、セットした絞りと自動セットされたシャッタースピードが点灯します。
シャッタースピードダイヤルはどの位置にセットしていてもかまいません。

シャッター優先オート撮影［Tv］（MMレンズ装着時のみ）



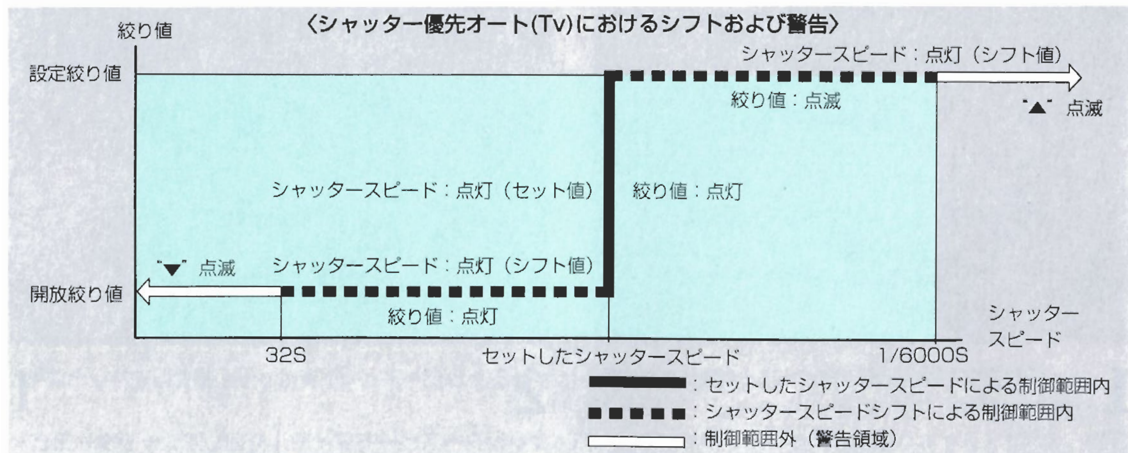


1 レンズの絞りを緑色の最小絞りにし、露出モード切り替えレバーを"Tv"にセットします。

MMタイプのレンズでは、プログラムオート、またはシャッター優先オート撮影時のセット位置として、絞りリングの最小絞りが緑色で表示されています。

2 シャッタースピードをセットし撮影します。

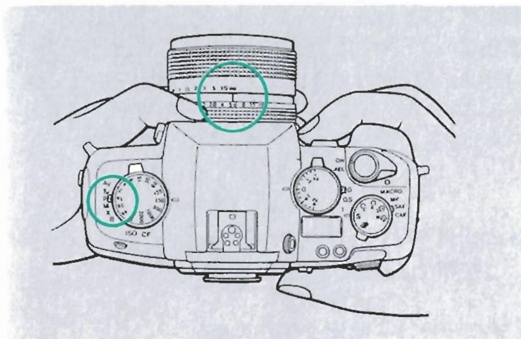
シャッタースピードダイヤルを回してシャッタースピードをセットすると、シャッタースピードに応じた適正絞りが自動セットされ、ファインダー内に、セットしたシャッタースピードと自動セットされた適正絞りが点灯表示します。



"Tv" モードの場合、セットしたシャッタースピードでは、適正絞り値が絞り範囲外になるとき、適正露出を得るため自動的に違うシャッタースピードにシフトされ、常に適正露出になるように調整されます。このときシャッタースピード表示はシフトした値になります。自動シフトしたシャッタースピードは、32秒～1/6000秒まで連動（制御）します。

- セットしたシャッタースピードよりも適正シャッタースピードが早い場合には絞り表示が点滅します。このときは、絞りが最小絞りになっているか確認してください。
- MMレンズを最小絞りとは異なる絞りにセットしたときは、セットした絞りと開放の間で絞りが自動セットされます。

プログラムオート撮影［P］（MMレンズ装着時のみ）

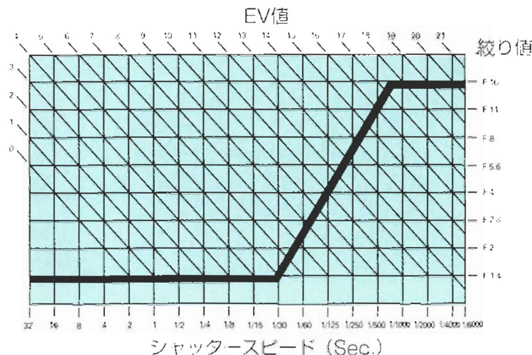


1 レンズ絞りを緑色の最小絞りにし、露出モード切り替えレバーを“P”にセットします。

2 撮影します。

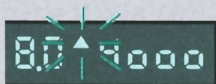
明るさによりプログラムされた絞りとシャッタースピードの組み合わせが自動的にセットされ、ファインダー内に、自動セットされた絞りとシャッタースピードが点灯表示されます。

プログラムオート制御図
（F1.4レンズ使用、ISO100·F16にセット）

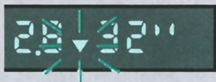


〈プログラムオート制御図〉
プログラムオートでの絞りとシャッタースピードの組み合わせは図のようになります。

● レンズの絞りが最小絞りにセットされていないときは、制御範囲がせまくなります。



オーバー警告



アンダー警告

オート露出撮影（Av、Tv、P）時のご注意

〈オート露出撮影時の露出オーバー/アンダー警告〉

露出オーバー警告

露出マーク"▲"が点滅するときは、露出オーバーになります。被写体が明るすぎますので、絞りを調整し直して、"▲"が消えるようにしてください。また、別売りのNDフィルター（光量制限用）で光を調整することができます。

露出アンダー警告

露出マーク"▼"が点滅するときは、露出アンダーになります。被写体が暗すぎますので、照明を加えて被写体を明るくしたり、絞りを変えたりして"▼"が消えるようにしてください。また、専用のストロボを使うと明るくきれいな写真が撮れます。

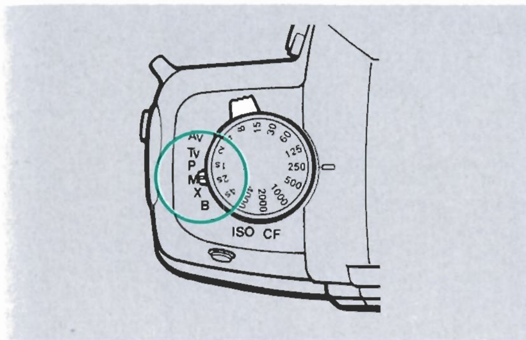
- 露出オーバー/アンダー警告時でも、シャッターボタンを押せば撮影できます。

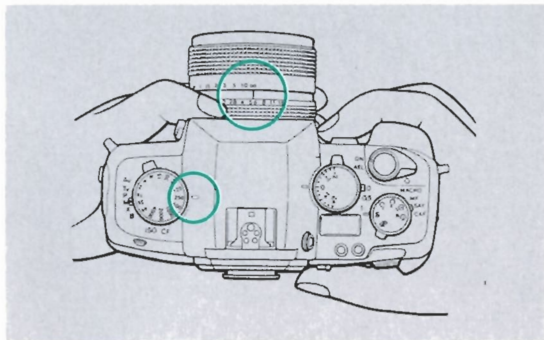
〈アクセサリー使用上のご注意〉

開放F値が5.6より暗いレンズ、または自動絞りの連動しないアクセサリー（オートベローズPC、マイクロスコープアダプター、接写リング7.5mm、リバースリングなど）を使用する場合は次のことに注意してください。

1 ファインダー内の絞り表示は"1.4"に固定されますが測光機能は正常に作動します。
2 "Tv"、"P"での撮影はできません。"Av"または"M"にして撮影してください。

マニュアル露出撮影［M］





1 露出モード切り替えレバーを"M"にセットします。

2 シャッタースピードと絞りをセットし、撮影します。

シャッタースピードダイヤルを回してシャッタースピードをセットし、絞りはレンズの絞りリングでセットします。

ファインダー内には、セットしたシャッタースピードと絞りが点灯表示され、露出マークが点灯します。

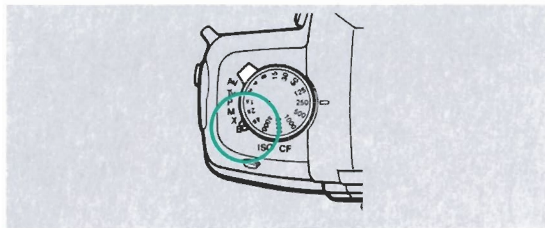
"▲"　：オーバー

"▲▼"　：適正

"▼"　：アンダー

シャッターダイヤルまたはレンズの絞りリングを動かし、"▲▼"表示にしてください。

バルブ撮影［B］

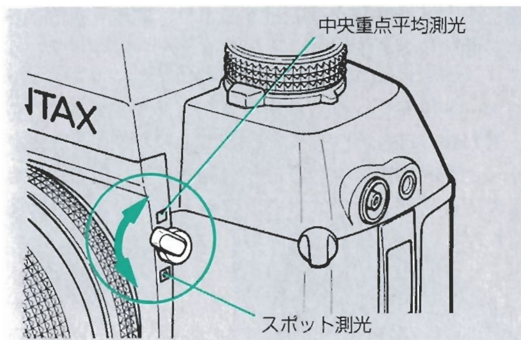


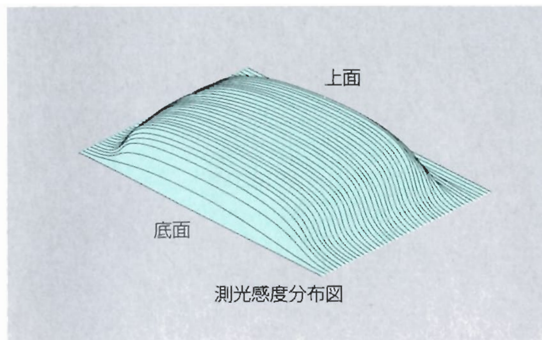
1 露出モード切り替えレバーを“B”にセットします。

2 絞りをセットし撮影します。
シャッターボタンを押している間シャッターが開いて露光されます。

- カメラぶれを防ぐため、三脚で固定するか、安定した台などに置き、別売りのケーブルスイッチＬをカメラに接続して撮影してください。
- 露光中、表示パネルのフィルムカウンターはバルブ撮影の経過時間を示すタイマー表示に切り替わります。表示は“0'00”から“9'59”（9分59秒）までカウントされ以後その繰り返しになります。
- 露光中は、ファインダー内表示がすべて消えます。

測光方式

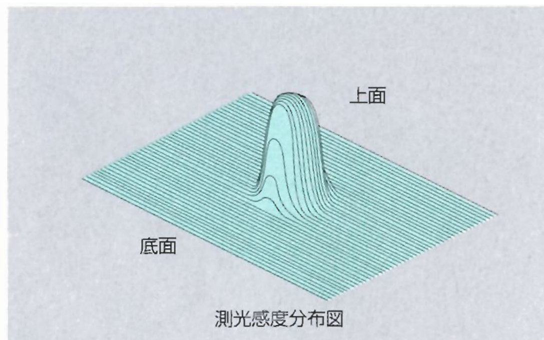




このカメラには中央重点平均測光とスポット測光の２通りの測光方式があり、測光切り替えレバーでセットします。撮影条件や撮影意図により使い分けると、より精度の高い効果的な写真撮影が行えます。

〈中央重点平均測光〉（[ ] マーク）

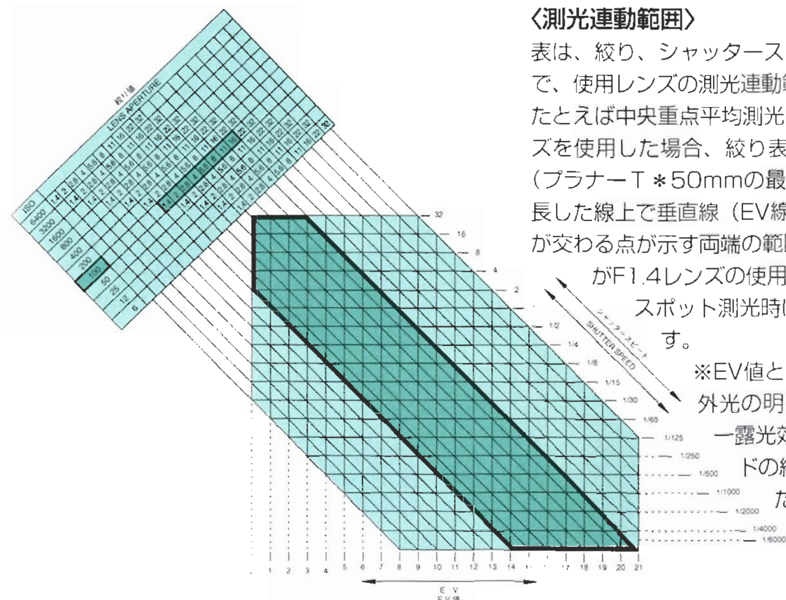
主にファインダー画面中央部の被写体の明るさを重点的に、かつ周辺部の明るさも加味して測光を行い、露出値を決定する方式です。光の変化が激しいところでもよく対応しますので、一般の撮影はもちろん、動きの激しいものでも容易に露出を決めることができます。



〈スポット測光〉（[•] マーク）

ファインダー画面中央のほぼマイクロプリズム部分にあたる被写体の明るさのみを測光して露出を決める方式で、ファインダー内中央外側の円内が測光の範囲です。
たとえば、逆光の人物や特定の部分にライティングを活かした舞台撮影など、**被写体と背景の明るさが極端に違う場合**、また画面効果を考えて、**特に被写体の一部分だけを測光して撮影したい場合**などは、このスポット測光を利用するときれいな写真が撮れます。

●このカメラは測光系の特性により、開放Ｆ値が5.6より暗いレンズ使用時、またはムターや接写アクセサリー（オートベローズPC、マイクロスコープアダプター、オート接写リング、リバースリング等）を使用して実絞り値が5.6より暗くなるときは、スポット測光を行うと測光誤差を生じることがあります。このような条件で使用するときは中央重点平均測光にして撮影してください。



□範囲内に色で表示してあるシャッタースピードの32秒から1/6000秒は、オート露出撮影時にカメラが正常に測光を行う範囲を示します。
■範囲内に色で示してある部分はISO100フィルムでF1.4レンズ使用時の測光連動範囲を示します。

〈測光連動範囲〉

表は、絞り、シャッタースピード、EV値の相互関係を示すもので、使用レンズの測光連動範囲を表しています。
たとえば中央重点平均測光時にISO100のフィルムでF1.4レンズを使用した場合、絞り表のISO100の項の“1.4”と“16”（プラナーT＊50mmの最小絞り値はF16です）から斜めに延長した線上で垂直線（EV線）と水平線（シャッタースピード線）が交わる点が示す両端の範囲、すなわちEV“0”からEV“21”がF1.4レンズの使用時の測光連動範囲です。
スポット測光時は測光連動範囲がEV3～21になります。

※EV値とは、露出計の連動範囲を示す数値で、外光の明るさが一定のときに、フィルムに同一露光効果を与える絞りとシャッタースピードの組み合わせを示すものです。
たとえば、表によりEV13では、F16、1/30秒でもF8、1/125秒でも同じ露光効果が得られることがわかります。

露出の補正

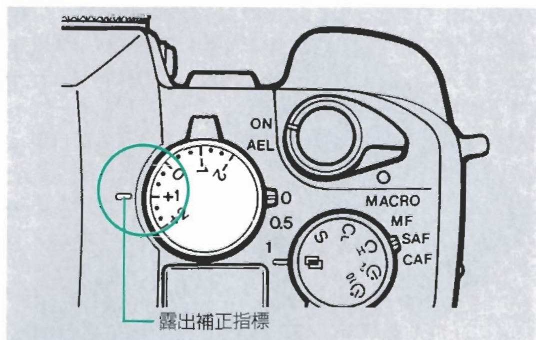
撮影のとき、主要被写体とその背景に極端な明暗差があるために、そのままでは主要被写体に適正露出が得られない場合、あるいは意図的に露出オーバー、アンダーの写真を撮りたいときには、次の3通りの露出補正方法があります。

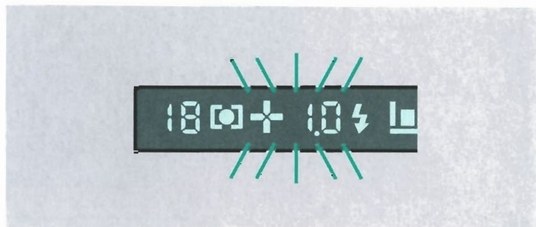
〈1.露出補正ダイヤルの利用〉

露出モードが"Av"、"Tv"、"P"、"M"いずれの場合も通常は露出補正ダイヤルを"0"にセットしておきますが、露出を補正するときは、露出補正ダイヤルを回して希望する補正値を露出補正指標に合わせてください。
補正値は+2EV〜-2EVまでの範囲内で1/3EVごとにセットすることができます。露出補正ダイヤルを"0"以外に合わせると、ファインダー内に、補正に合わせて"補正値"が点滅し補正中であることを表示します。

露出モード	露出補正する内容
絞り優先オート（Av）	シャッタースピード
シャッター優先オート（Tv）	絞り
プログラムオート（P）	絞りとシャッタースピード

"M"時は、露出マークが補正値に応じて点灯しますので、シャッタースピードダイヤルまたは絞りリングを動かし、露出マークが"◆"になるようにして撮影してください。





● 撮影終了後は、必ず補正ダイヤルを"0"に戻してください。



逆光撮影などのときは……
“+1/3” ～ “+2” の範囲で補正します。
（ファインダー内表示は “+0.3～+2.0” になります）

中央重点平均測光の場合、逆光や明るい空、海をバックにした人物、または窓辺の人物などのように明るい背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、人物は露出アンダーになり、シルエットのように暗くなります。このようなときは、露出を+1/3～+2の範囲で補正して、露出を多く与えます。

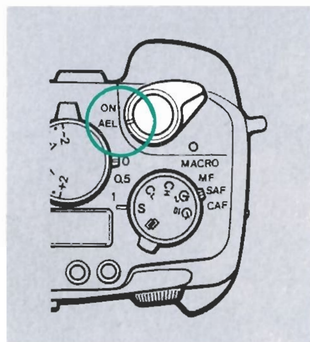




暗い背景などのときは……
“－1/3” ～ “－2” の範囲で補正します。
（ファインダー内表示は “－0.3～－2.0” になります）

スポットライトに照らし出された人物などのように、暗い背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、中央重点平均測光で撮影すると人物は露出オーバーになり白っぽくなります。このようなときは、露出を－1/3～－2の範囲で補正して、露出を少なくして撮影します。











〈2. AEロックの利用〉

オート露出撮影時に、被写体の露出（絞りとシャッタースピードの組み合わせ）を記憶する機構です。逆光時での撮影や動く被写体を一定の露出で連続撮影するときなど、露出を固定したいときに使います。

メインスイッチを“AEL”にセットすると、セット時点の露出がカメラに記憶され、そのままシャッターボタンを押すと背景の変化に関係なく記憶された露出でシャッターが切れます。

1 意図する構図のうち、まず主要被写体にファインダーの中央部分を向け、メインスイッチを“ON”→“AEL”に切り替えます。これで露出が固定（AEロック）されます。

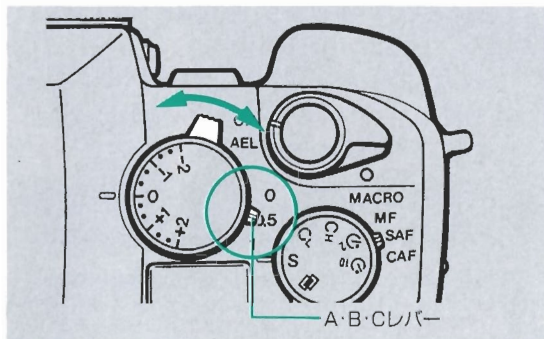
特に狭い範囲に露出を合わせたいときは、測光切り替えレバーをスポット測光にしてAEロックしてください。

- AEロック中は、ファインダー内の測光マークが点滅に変わります。
- AEロックのセットは、ファインダー内表示が点灯しているときに行ってください。

2 ファインダーを元の意図した構図に戻して撮影します。

- AEロック中は、露出が記憶され続け、何度でも同じ露出値で撮影できます。表示は省電のため16秒経過後に消灯します。
- 連続撮影（ドライブモード "CL、CH"）するときも、あらかじめ被写体の明るさをAEロックしておけば背景の変化による影響を受けずに同じ露出の写真が得られます。
- このカメラは、シャッタースピードと絞りの組み合わせで得られる露出を記憶する、像面光量記憶方式を採用しています。例えば、"Av" のときは、AEロック後に絞りを変えるとシャッタースピードも追従して変化し、全体の露出量を一定に保ちます。
- AEロック中に露出補正ダイヤルを変更すると、露出は次のように変化します。

露出モード	露出補正する内容
絞り優先オート（Av）	シャッタースピード
シャッター優先オート（Tv）	絞り
プログラムオート（P）	絞りとシャッタースピード



〈3. A·B·C撮影（3コマ連続自動露出補正）〉

このモードにセットすると、自動的にスタンダード、オーバー、アンダー、と3段階の露出バリエーションで連続撮影ができます。

非常に微妙な露出条件のもとででも、露出決定に気を取られることなくシャッターを押し続け、チャンスを確実にものにすることができます。

※A·B·C：Automatic Bracketing Control

1 A･B･Cレバーを動かし、補正幅をセットすると、A･B･C撮影に切り替わります。

補正幅は±0.5EV、±1EVの2種類が設定できます。

A･B･C撮影は、シャッタースピードまたは絞りをコントロールして自動露出補正を行います。

露出モード	コントロール内容
絞り優先オート（Av）	シャッタースピード
シャッター優先オート（Tv）	絞り（絞りの制御範囲を越える場合はシャッタースピードを自動的にコントロールします。）
プログラムオート（P）	シャッタースピード
マニュアル（M）	シャッタースピード

- 露出補正ダイヤルを“0”以外にセットすると、その補正値を基準にしたA･B･C撮影になります。
- 撮影するごとに測光しなおし、その時の測光値に対して補正を行います。周囲の明るさの変化による影響を受けずにA･B･C撮影がしたいときは、あらかじめAEロックをしてから撮影することをおすすめします。
- A･B･C撮影が終了したら、必ずA･B･Cレバーを“0”に戻してください。
- ストロボを併用するA･B･C撮影はできません。

2 ドライブモードを連続撮影“CL、CH”にして、シャッターボタンを押し続けると、セットした補正幅に従って、スタンダード、オーバー、アンダー、の順で撮影し、3コマ撮影し終わると止まります。

ドライブモードを“S”にすると1コマごとのA･B･C撮影になります。

ドライブモードを“Ⓢ2”または“Ⓢ10”にすると、2秒または10秒後連続撮影によるA･B･C撮影になります。

A･B･C撮影中は撮影順序を示すため、フィルムカウンターが次のように変化します。

スタンダード：両方の桁が点滅
オーバー　　：左側の桁のみが点滅
アンダー　　：右側の桁のみが点滅


スタンダード


オーバー


アンダー

例えば18コマ目からA･B･C撮影を行った場合は次のようになります。

		1コマ目	2コマ目	3コマ目	（以後繰り返し）
補正	：	スタンダード	オーバー	アンダー	スタンダード
カウンター	：	18	19	20	21
表示	：	左右点滅	左側点滅	右側点滅	左右点滅

- 補正幅がカメラの補正限界を越えるときは、限界補正値で撮影されます。
- 途中で中止するときは、A･B･Cレバーを "0" にしてください。
- A･B･C作動中にメインスイッチを "OFF" にして再度 "ON" にすると、A･B･C撮影はまた1回目より順に3コマ分行われます。

ストロボ撮影

室内や夜間の撮影で、シャッタースピードが1/30秒以下になるときは、ストロボの使用をおすすめします。
このカメラとコンタックスTLAフラッシュシステムを組み合わせるとカメラ側でストロボ光を自動制御する"TTLダイレクト測光"による撮影が行えます。
またTLA360ストロボをご使用のときは、さらにストロボオートセットやストロボ光量補正等の機能を搭載していますので必ず本取扱説明書「CONTAX TLA360ストロボ」の項(P90)を併せてご覧ください。
また、X接点のみの汎用ストロボをご使用する場合には、露出モード切り替えレバーを"X"にセットしてご利用いただけます。

〈TTLダイレクト測光による撮影〉

1 カメラにストロボを取り付け、ストロボの電源を入れます。

2 ストロボを"TTLオートモード"にセットします。

充電が完了するとファインダー内に"⚡"マークが点灯しカメラの露出モードにより次のようにシャッタースピードが自動セットされます。

■ Av(絞り優先オート)のとき

自然光の測光値	自動セット シャッタースピード	(表示)
32秒〜1/60秒	1/60秒	"60"が点灯
1/60秒〜1/200秒	1/60秒〜1/200秒	"60"が点灯〜"200"が点灯
1/200秒〜1/6000秒	1/200秒	"200"が点灯

■ Tv(シャッター優先オート)のとき

シャッターダイヤルのセット	自動セット シャッタースピード	(表示)
4秒〜1/125秒	4秒〜1/125秒(シャッターダイヤルのセット値のまま)	
1/250秒〜1/4000秒	1/200秒	"200"が点灯

■ P(プログラムオート)のとき

自然光の測光値	自動セット シャッタースピード	(表示)
32秒〜1/60秒	1/60秒	"60"が点灯
1/60秒〜1/200秒	1/60秒〜1/200秒	"60"が点灯〜"200"が点灯
1/200秒〜1/6000秒	1/200秒	"200"が点灯

■ M（マニュアル）、X（ストロボ）、B（バルブ）のとき

● "M" のときはシャッタースピードが自動セットされません。必ず1/125秒以下にセットしてください。
● セットしたシャッタースピードがファインダー内に点灯表示されます。
● "X" のときはシャッタースピードが1/200秒にセットされ、ファインダー内に "200" が点灯表示されます。
● "B" のときは "バルブ撮影" になり、ファインダー内に "buLb" が表示されます。

3 絞りをセットして撮影します。

露出モード	絞り
Av、Tv、M、X、B	絞りをセットしてください。 セットした絞りで撮影されます。
P	最小絞り（緑色）にセットしてください。 自動セットされます。(F4:ISO100) 明るいときは自動的に絞り込みます。

● "Tv" モードのとき絞りは自動セットされません。ストロボ撮影時は必ず絞りをセットしてください。



撮影後調光が行われたときはファインダー内 "⚡" マークが2秒間点滅します。

● 撮影後 "⚡" マークが点滅しないときは露出アンダーになりますので、絞りや撮影距離を変えて撮影しなおしてください。
● 近接撮影時、"⚡" が撮影後点滅しても露出オーバーになることがあります。ストロボの取扱説明書記載の撮影範囲で撮影してください。
● A・B・Cレバーは必ず "0" にしてください。
● ドライブモードが "CL、CH" （連続撮影モード）の場合は、ストロボの性能をご確認の上ご使用ください。
● フィルム感度はISO25～800に連動します。（露出補正は含みません。）



スローシンクロ撮影



通常のストロボ撮影

〈スローシンクロ撮影〉

ストロボ撮影で夕景や夜景などの情景を生かした撮影を行うには1/30秒以下のスローシンクロ撮影が有効です。ＴＬＡストロボのＴＴＬオートモードを利用すると簡単な操作でスローシンクロ撮影が行えます。

■露出モードが“Av”、“Tv”、“P”のとき

構図を決め、メインスイッチを“AEL”にセットします。シャッタースピードが、自然光の測光値にロックされますのでストロボの充電完了を確認して撮影してください。

■露出モードが“M”のとき

シャッタースピードを1/30秒以下にセットします。絞りを動かして自然光の測光値に露出を合わせ“▲▼”が点灯するようにし、ストロボの充電完了を確認して撮影してください。

- スローシンクロ撮影ではシャッタースピードが遅くなりますので、カメラぶれ防止のために三脚をご使用ください。





〈デイライトシンクロ撮影〉

屋外の撮影時に、たとえば強い日差しの下や逆光下でそのまま人物を撮影すると、人物は暗くなりがちです。このようなときは、TLAストロボを使ってTTLオートモードで撮影すると人物も背景もきれいに描写することができます。

■露出モードが“Av”、“Tv”のとき

ストロボ充電完了後、“▲”が点滅した場合は、絞りを絞り込んで“▲”を消して撮影してください。

■露出モードが“P”のとき

明るいところでは、自動的に露出が調整されてデイライトシンクロ撮影になります。

■露出モードが“M”、“X”のとき

絞りを調整し、ファインダー内露出マークが“▲▼”表示になるようにして撮影します。

“M”のときは、シャッターダイヤルを“125”以下にセットしてください。

〈露出補正ダイヤルの利用〉

TTLオート撮影では、ストロボの発光量はカメラの露出補正ダイヤルに連動します。ストロボ光量を調整して効果を出したいときは、露出補正ダイヤルを利用してください。





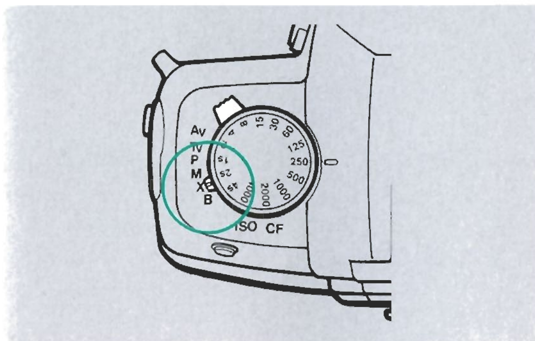
〈後幕シンクロ撮影〉

後幕シンクロは動きのある被写体をスローシンクロ撮影するときに効果があります。

通常のストロボ撮影は、シャッターの先幕が走行を終えた直後にストロボを発光（先幕シンクロ）させて撮影します。

このカメラと、後幕シンクロ機能のある当社ストロボとを組み合わせると、後幕が走行を始める直前にストロボを発光（後幕シンクロ）させることができます。ストロボ光で照らされた被写体の後ろに、自然光で照らされた被写体の動きが流れるように写り、自然な動きを表現できます。

- 露出制御は、通常のストロボ撮影（先幕シンクロ）と同様です。



〈TLAストロボ以外のX接点を利用した他のストロボによる撮影〉

露出モード切り替えレバーを"X"にします。

1 カメラにストロボを取り付け、露出モード切り替えレバーを"X"にセットします。

シャッタースピードは、1/200秒になります。

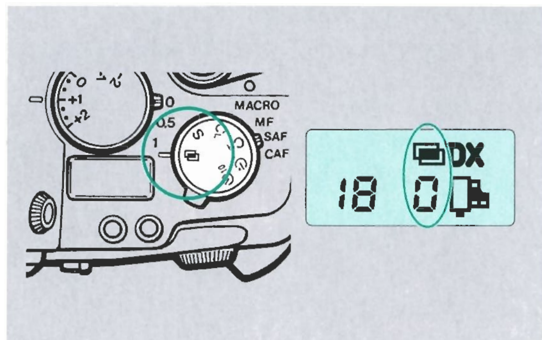
- シャッタースピードダイヤルがどの位置にあっても変わりません。

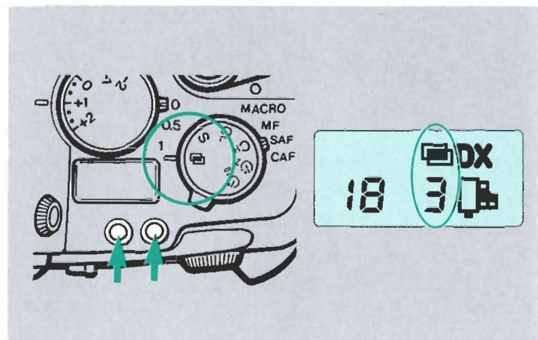
2 絞りをセットして撮影します。

絞りは使用するストロボの取扱説明書に従って決めてください。

- ダイレクト接点ではない、コードを必要とするストロボは、カメラ側面のシンクロターミナルに接続してください。

多重露出撮影





同じ画面に、違う種類の被写体、あるいは同じ被写体を重ねて写し込むことにより、独特の写真表現ができます。

1 ドライブモード切り替えダイヤルを引き上げて、多重露出モード"▣"にセットします。

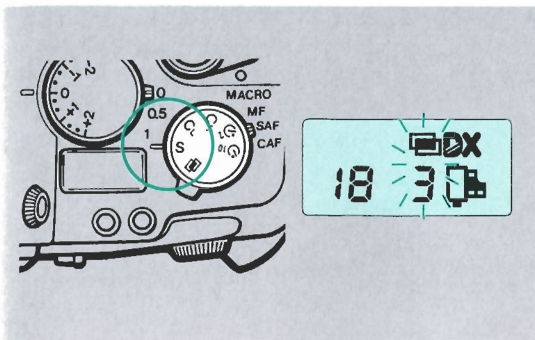
表示パネルが、図の表示になります。

- この位置ではドライブモード切り替えダイヤルは上がったままになり、ダイヤル下部にオレンジ色の警告表示が現れます。

2 "アップボタン"、"ダウンボタン"を押して、多重露出する回数をセットします。

ボタンを押すごとに、0←→2←→3←→…←→9まで変わり、点灯表示になります。

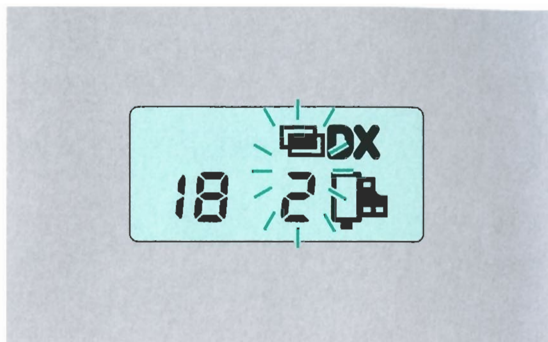
たとえば、"3"を表示させると、同じ画面に3回重ねて露光できます。



3 ドライブモード切り替えダイヤルを“▣”以外に戻します。

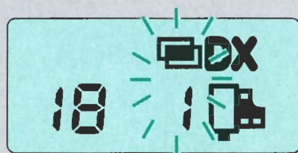
表示パネルの表示は“多重露出回数と“▣”が点滅表示になります。

● ドライブモード切り替えダイヤルが“▣”の位置では撮影できません。



4 シャッターボタンを押して１回目の露光を行います。

シャッターボタンを押すと１回目の露光を行い、次の露光のためにシャッターだけがセットされます。
表示パネルの多重露出回数の表示が１回分、減ります。



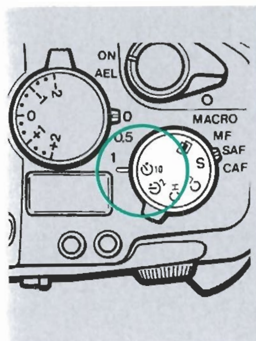
5 さらにシャッターボタンを押して次の露光を行います。

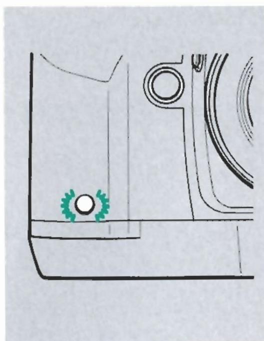
4と同様にシャッターだけがセットされ、多重露出回数がさらに1回分、減ります。

最後の露光を行うとフィルムが送られて、表示パネルは通常の表示に戻ります。

- 撮影の途中でメインスイッチを“OFF”にすると、次に“ON”にしたときは、多重露出の続きの撮影になります
- 撮影の途中で多重露出を中止する場合は、上記1、2の操作をして多重露出回数を“0”にしてください。ドライブモード切り替えダイヤルを“▣”から他の位置に戻すと、フィルムが送られ多重露出が終了します。
- 多重露出回数をセットした後、撮影を開始する前にメインスイッチを“OFF”にすると多重露出は中止されます。

セルフタイマー撮影





1 **ドライブモード切り替えダイヤルを"ⓢ2"または"ⓢ10"にセットします。**

2 ピントを合わせ、シャッターボタンを押してください。

セルフタイマーが作動し2秒後または10秒後にシャッターが切れます。

セルフタイマー作動中、表示パネルのフィルムカウンターが、シャッターが切れるまでの残り時間（秒）を示す表示になり、カメラ前面のセルフタイマーLEDが点滅します。

- セルフタイマー作動中は、オートフォーカスによるピント合わせは行いませんので注意してください。オートフォーカスでセルフタイマー撮影するときは、ファインダー内の合焦マーク"●"の点灯を確認してから、シャッターボタンを押し込んでセルフタイマーを作動させてください。
- セルフタイマー撮影時は、三脚をご使用ください。
- 露出モードを"B"（バルブ）にセットしたときはセルフタイマーは使用できません。
- オート露出（"Av"、"Tv"、"P"）時は、接眼部から入る光が測光に影響しないよう、アイピースシャッターで接眼部を閉じてください。
- セルフタイマー作動中にシャッターボタンを押すとカウンターはまた最初に戻り残り時間をカウントします。
- 次の操作をすると、セルフタイマーの作動は途中解除されます。
  - メインスイッチを"OFF"にしたとき。
  - ドライブモードを切り替えたとき。
  - 露出モードを"B"（バルブ）にしたとき。
  - 巻き戻しスイッチを"ON"したとき。

カスタム機能

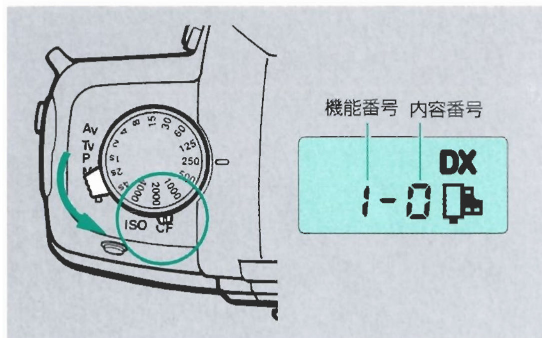
このカメラには、次の表のように、8項目の“カスタム機能”を搭載しています。
お買いあげ時は、標準的な機能（内容番号“0”）にセットしてあります。（この説明書では“0”状態を基本に説明してあります。）
カスタム機能を変更したい場合は「カスタム機能のセットのしかた」（P82）をご覧ください。
● カスタム機能を変更した場合は、カメラの操作・手順にご注意ください。

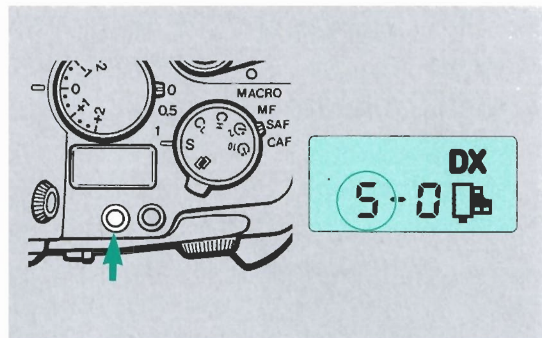
〈カスタム機能一覧表〉

内容番号 機能番号	標準設定 0	変更設定 1
1. 露出チェックボタンの機能	露出チェック表示	露出モード“Av”“Tv”“P”のとき、ボタンを押している間その時の露出が固定されます。 ●メインスイッチによる連続AEロック時は、連続AEロックが優先します。
2. 多重露出設定方式の切り替え	多重露出回数をセットして、多重露出。 意図した多重露出回数を正確に行うことができます。	ドライブモード切り替えダイヤルを“▣”にセットするだけで、状況に応じて必要な回数の多重露出を行うことができます。 ※1
3. A・B・C撮影順序の切り替え	撮影順序が　スタンダード ↓ オーバー ↓ アンダー	撮影順序が　オーバー ↓ スタンダード ↓ アンダー

機能番号＼内容番号	標準設定 0	変更設定 1
4. 絞り込みボタン操作方法の切り替え	絞り込みボタンを押している間絞り込み	絞り込みボタンを一度押すと絞り込み、もう一度押すと開放になる
5. フィルム巻き戻し時のフィルム残り	フィルムをパトローネ内にすべて巻き込む	フィルムの先端をパトローネの外に残す
6. フィルム終了時の巻き戻し	巻き戻しレバーを操作する	自動巻き戻し
7. AF補助光の点灯	被写体が暗いときやコントラストが低くピントが合わせにくい場合は、自動的にAF補助光を点灯する。	点灯しない
8. ピントが合ったときに電子音がでる	電子音あり（SAF）	電子音なし
CLE：カスタム機能のオールリセット	カスタム機能（1〜8）の内容をすべて標準設定“0”にする ● この状態で露出切り替えレバーを“CF”以外にすると、それまでにセットしたカスタム機能の内容がすべて標準設定“0”の状態になりますので注意してください。	

※1：この機能にセットすると、ドライブモード切り替えダイヤルを“▭”にセットするだけで、多重露出撮影ができるようになります。状況に応じて必要な回数だけ多重露出が行えます。表示パネルに“▭”が点滅表示されます。
ドライブモード切り替えダイヤルを、“▭”から他のモードに変えると、フィルムが送られ、多重露出が終了します。
● この機能を選択しているときは、多重露出撮影が終了したら、必ずダイヤルを“▭”から戻すことを忘れないでください。



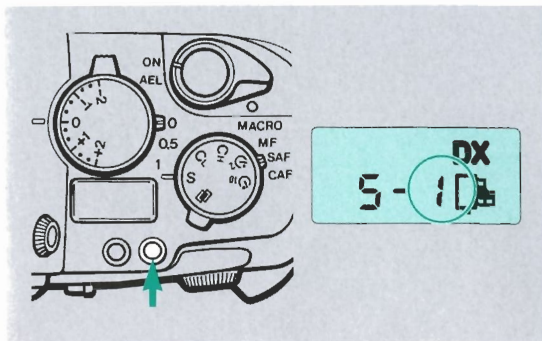


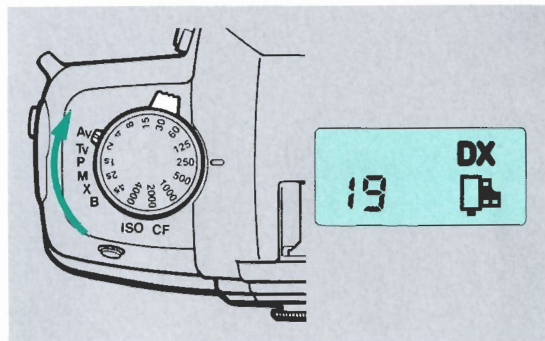
〈カスタム機能のセットのしかた〉

1 露出モード切り替えレバーを、"CF"にセットします。表示パネルに"機能番号と内容番号"が表示され、カスタム機能セット状態になります。

2 "ダウンボタン"を押して、セットする機能の番号を選び、表示させせます。

"ダウンボタン"を押すごとに、機能の番号が1→2→……→8→CLE→1→（以下繰り返し）と変わります。





3 "アップボタン" を押して、内容の番号を選択します。

"アップボタン" を押すごとに数字が変わりますので、セットする番号にしてください。

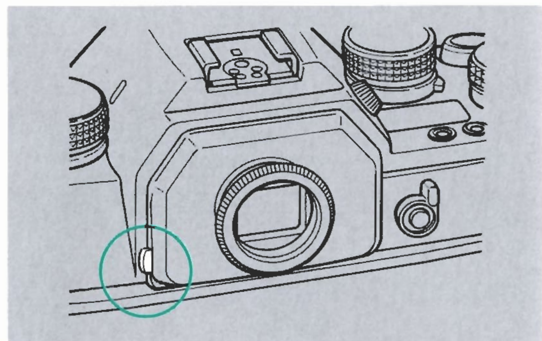
4 露出モード切り替えレバーを撮影モードの位置（"CF" 以外）に戻します。

表示パネルが、通常の表示に戻り "CF" は消えます。

- セットした機能をすべて解除するときは、前記2、で "CLE" を表示させた後、露出モード切り替えレバーを撮影モードの位置（"CF" 以外）に戻してください。

その他

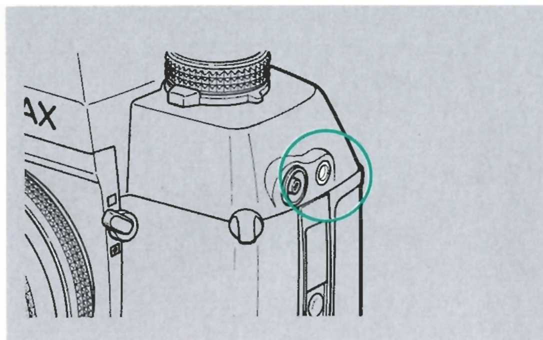
アイピースシャッター



セルフタイマーやケーブルスイッチＬを利用してのオート撮影（Av、Tv、Pの各モード）では、ファインダー接眼部から目を離しますので、接眼部から入る光が測光に影響をおよぼすことがあります。このような撮影では、アイピースシャッターを利用して接眼部をしゃ閉してください。

アイピースシャッターレバーを上にするとしゃ閉されます。

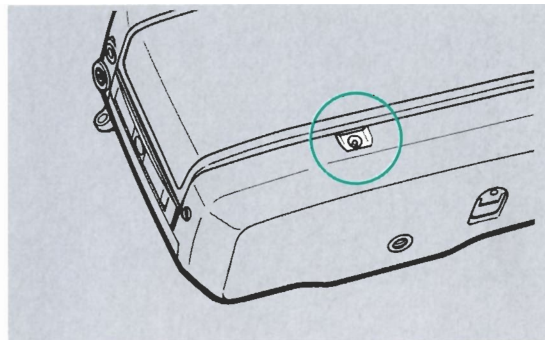
ケーブルスイッチソケット



ケーブルスイッチLやオートベローズを接続する接点で、これらアクセサリーからの電気信号を伝え、シャッターを作動させます。

- ケーブルスイッチソケットには、市販されている一般のメカ方式ケーブルレリーズは取り付けないでください。故障の原因になります。

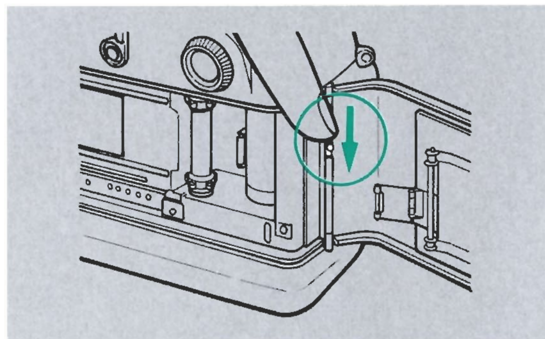
外部電源ソケット



別売りの外部電源（パワーパックP-8）を取り付けるためのソケットです。
パワーパックP-8の電源プラグをここに差し込んで使用します。

- P-8をご使用のときは、必ず「別売りアクセサリー"パワーパックP-8"」の項(P94）をご覧ください。
- パワーパックP-8以外は使用しないでください。故障の原因になります。

裏ぶたの取りはずし



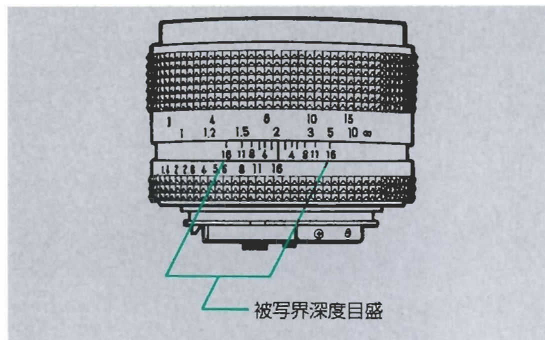
カメラの裏ぶたを取りはずし、別売りのデータバックD-8（P93）と交換することができます。
裏ぶたは、着脱ピンを押し下げて取りはずします。

シャッタースピードと絞り値の表示について

シャッタースピードおよび絞り値は次のように表示されます。

- シャッタースピードの表示は"6000"（1/6000秒）から"32" "（32秒）まで表示されます。カメラの露出モードが"Av"、"P"のときは絞りに応じた値を1/2段階ごとに、"Tv""M"のときはセットした値を表示します。
  "X"にセットしたときはシャッタースピードは"200"が表示されます。
  "B"にセットしたときはシャッタースピード"buLb"と表示されます。
- 絞り値は、使用レンズの絞り範囲内で1/2段階ごとに値が表示されます。ただし、1/2段のさらに間で作動するときは近い表示で示されます。たとえば絞り値がf3.3のときは"3.5"と表示されます。

被写界深度について



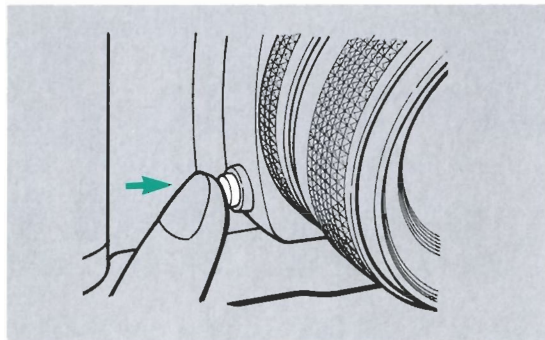


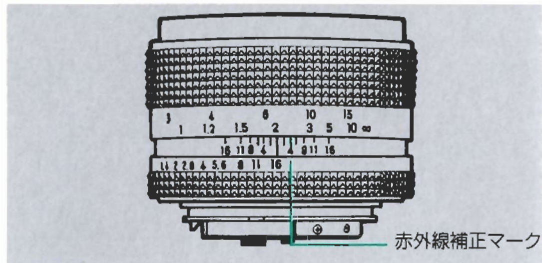


レンズの一般的性質として、ある被写体にピントを合わせたとき、被写体自身が鮮明に写るだけでなく、その前後にも鮮明に写る範囲があります。この範囲を被写界深度といいます。同じレンズでの被写界深度は次のように変化します。

1. 絞りを絞り込むほど被写界深度が深く、開放にするほど浅くなります。
2. 被写体の距離が遠いほど被写界深度が深く、近いほど浅くなります。
3. ピントを合わせた被写体の後方に深く、前方に浅くなります。また異なるレンズでは、焦点距離の短いレンズほど深く、焦点距離の長いレンズほど浅くなります。

被写界深度の具体的な範囲は、個々のレンズの被写界深度目盛で確認することができます。例えば50mmF1.4標準レンズで2mの距離にピントを合わせ、絞りをF16にセットした場合は、被写界深度目盛16に対応する距離、すなわち約1.4mから約5mまでピントが合うことになります。





〈絞り込みボタン〉

ファインダーは常に絞り開放の状態になっていますが、このボタンを押すとセットした絞り値まで絞り込まれ(ファインダー内は絞り値に応じて暗くなります。)、その状態で被写界深度や背景のぼけ具合を見ることができます。

- 絞り込みボタンを押したまま露出の確認や撮影をしても、適正露出は得られません。
- 露出モードが"Tv"、"P"のとき絞り込み作動はできません。

1. 露出について

このカメラの露出計は、赤外線フィルムについては測定できません。フィルムの説明書に従って露出値を決定してください。

2. 赤外線補正マーク

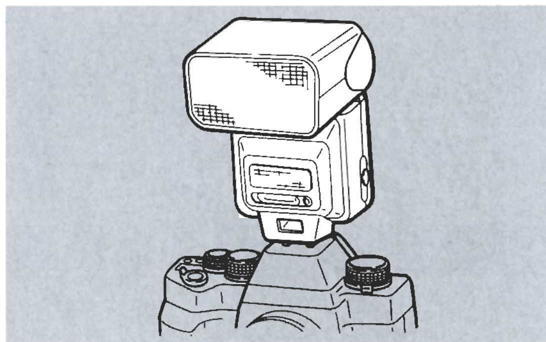
赤外線フィルム(赤フィルター使用)を使用して赤外線撮影する場合は、一般撮影のときとピントが少しずれますので、そのずれ量だけ補正が必要になります。レンズにはそのための赤外線補正マークが表示されています。

フォーカスモードを"MF"にセットして、手動でピント合わせを行ってください。まず、フィルターなしでピント合わせしたあと、フィルターを取り付け、そのときの距離目盛を補正マークの位置までずらして撮影します。

- カラー赤外線フィルムを使用するときは、フィルムの説明書に従って撮影してください。

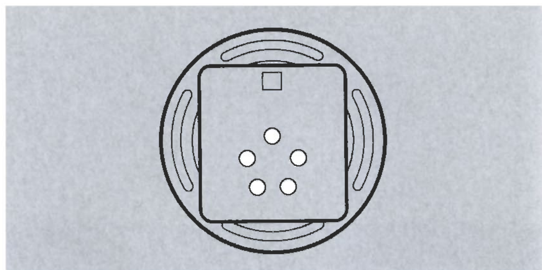
別売り
アクセサリー

CONTAX TLA360ストロボ



ガイドナンバー36（ISO100·35mmレンズ画角カバー時）の、クリップオンタイプのTTL自動調光方式パワーズームオートストロボです。ストロボオートセットの機能を備えていますので、コンタックスAXと組み合わせると、従来のTTLオートストロボの機能に加えて以下の四つの機能をもった使いやすいストロボです。

- これらの機能は、カメラ上部のアクセサリーシューに直接ストロボを取り付けた場合にお使いいただけます。TLA延長コードやTLA増灯システムを利用して、カメラのアクセサリーシューから離して使用するときは、ストロボには自動セットされません。



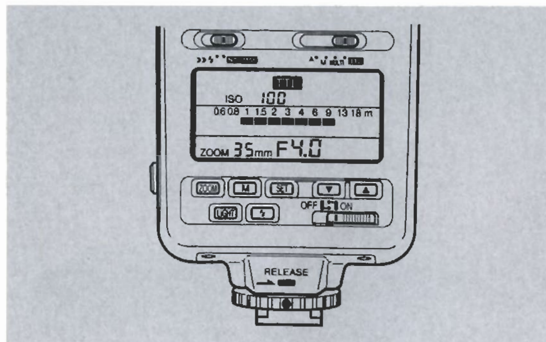
- ストロボオートセット機能を備えた当社TLAストロボはストロボ取り付け脚の接点が5箇所になっています。

<1. オートセット機能>

機能 / ストロボ撮影モード	フィルム感度の自動セット	絞り値の自動セット
TTLオート	○	○
外部測光オート	○	×
マニュアル	○	○
マルチ発光	○	○

○：カメラ側のセットによりストロボにも自動セットします。（ストロボ充電完了時）

×：ストロボには自動セットされません。



<2. ストロボ光量の補正>

"TTLオートストロボ撮影" モードで行います。他のモードでは、補正することができません。

● 補正は−3EV〜+1EVの範囲で1/3ステップごとに行えます。

● ストロボの補正は、カメラの露出補正の値を基準にして発光量を補正します。たとえば、カメラの露出補正を "+1"、ストロボ側の補正を "+1" とすると、ストロボの発光量は+2EVになります。

①ストロボの "SEL" ボタンを押します。

● ストロボの表示パネルに補正目盛が表示され、"+/−" マークが点滅します。

②ストロボの "▲" "▼" アップ／ダウンボタンを押して補正目盛を希望する値にします。

③再度 "SEL" ボタンを押します。

"+/−" マークが点灯表示になり、補正のセットが完了です。

● ストロボ表示パネルの補正目盛は、ストロボ側の補正量を表示します。

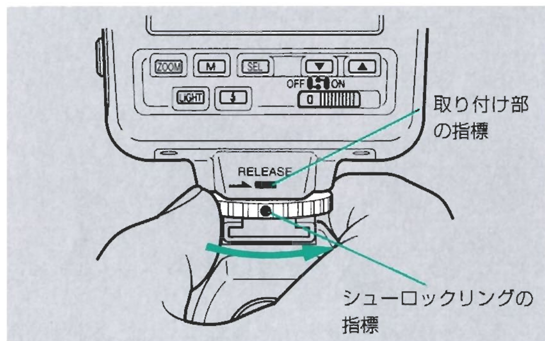
● ストロボ側の補正量が "0"（補正しない）ときは、8秒後に補正目盛は消灯します。

<3. "オートOFF"、"オートON" 機能>

ストロボの電源スイッチを "オートOFF" にセットしたとき、ストロボの電源が約80秒で自動的にOFFになります。

またカメラのシャッターボタンを半押しすることで "オートON" になり、ストロボの充電が開始されます。

長時間のストロボ撮影時、省電効果があります。

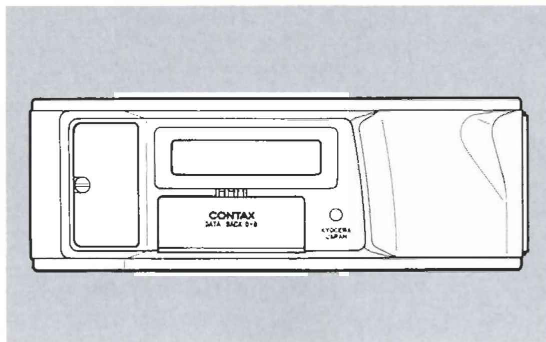


<4. シューストッパー>

TLA360の"取り付け脚"には、ストロボが不用意にカメラからはずれないようにシューストッパー（抜け防止機構）がついています。
カメラの取り付け、取り外しの際は必ず"取り付け脚"の指標にシューロックリングの指標を合わせてから行ってください。

※ 前記のほかにも多くの特徴を持ったストロボですので、TLA360の取扱説明書を併せてご覧になり、多彩なストロボ撮影をお楽しみください。

CONTAXデータバックD-8（マルチファンクションタイプ）



コンタックスAXの裏ぶたと交換して使用するマルチファンクションタイプのデータバックです。フィルムの最初の2コマ（あるいは1コマ）に撮影時の露出データを一括して写し込む「まとめ写し込み」機能と、それぞれのコマ間に日付や露出データなどを写し込む「コマ間写し込み」機能があります。併用することができますので、「まとめ写し込み」をセットして露出データを記録し、「コマ間写し込み」で日付や時刻あるいはカウンター数値などをコマ間に写し込み、写真の分類や露出データの保存と整理など幅広くご活用いただくことができます。またカメラの作動をコントロールするインターバル撮影機能も搭載しています。

まとめ写し込み機能

各コマの撮影時の露出データをカメラが記憶しておいて、フィルムを巻戻すときに最初の2コマ（あるいは1コマ）にまとめて写し込みます。

写し込む内容

① フィルムを装てんした日付（年・月・日・時）
② 露出データ（露出補正値、シャッタースピード、F値、露出モード）
③ コマの番号（5コマごと）
④ 巻戻しをした日付（年・月・日・時）

コマ間写し込み機能

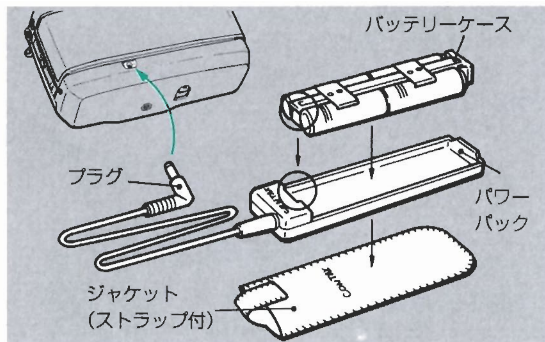
フィルムコマ間に次の8つのモードから一つ選んで写し込むことができます。

① 日付（年・月・日）　② 日付（月・日・年）
③ 日付（日・月・年）　④ 時刻（日・時・分）
⑤ 撮影時の露出データ（露出補正値、シャッタースピード、F値、露出モードまたはキャラクター2文字）
⑥ カウンター数値（4桁の積算カウンター+フィルムカウンター）+キャラクター2文字
⑦ 任意の6桁固定数値+キャラクター2文字
⑧ 写し込みなし

インターバル撮影

設定した時刻より一定時間ごとに、設定した撮影回数分自動的に撮影する機能を搭載しています。時間の経過による変化を観察する撮影や無人撮影に便利です。

パワーパックP-8



1.5V単3形電池4本、または1.2V単3形ニッカド電池4本を使用する外部電源です。寒冷地など、気温の低い場所で、寒さの影響による電池の性能の低下を防ぐために、**カメラの外部で電源を保温しながら撮影するために利用します。**

■使い方

①バッテリーケースに、表示に従って単3形電池4本を入れ、パワーパック本体に取り付けます。
- パワーパック本体の切り欠きとバッテリーケースが一致する向きでケースを取り付けてください。向きが違うと取り付けられません。

②パワーパックをジャケットに入れます。
③パワーパックのコード先端のプラグを、カメラ本体の外部電源ソケットに差し込みます。電源の供給は、カメラ本体の電池からパワーパックP-8の電池に切り替わります。
- 撮影の際に、パワーパックを防寒具の内側などに入れると、より保温の効果を高めることができます。
- 電池を交換するときは、種類の違うものや古いものを混ぜたりしないで、4本とも同じ種類の新品電池を同時に交換してください。
- パワーパックを長期間使用しないときは、電池の漏液を防ぐため、バッテリーケースから電池を取りはずしておいてください。
- 接続コードの取りはずしは、コードを引っぱらずにプラグ部を持って行ってください。

構成： パワーパック本体、バッテリーケース、ジャケット（ストラップ付き）、コードの長さ：1.5m

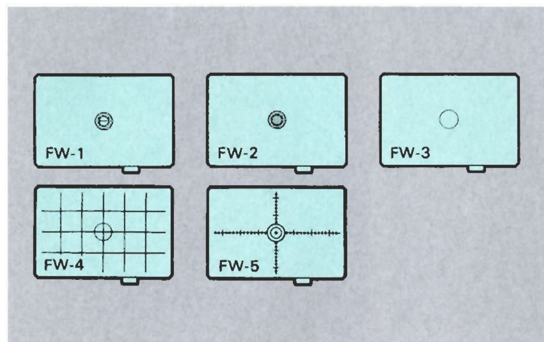
■使用バッテリーと撮影本数

（36枚撮りフィルム、新品電池使用、－10℃当社撮影基準による。）

バッテリー種類	撮影本数
1.5V単3形アルカリ乾電池4本	約10本
1.2V単3形ニッカド電池4本	＊約 5本
1.5V単3形リチウム電池4本	約50本

＊ ニッカド電池はフル充電して使用したとき。
- 単3形マンガン乾電池は電池容量が少ないためご使用になれません。

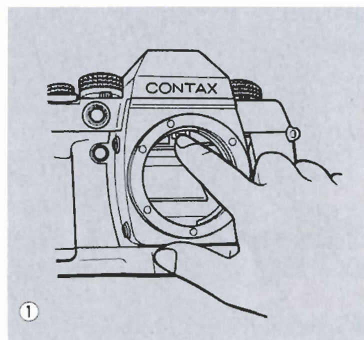
フォーカシングスクリーンFWタイプ

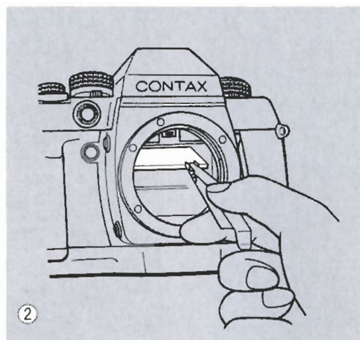


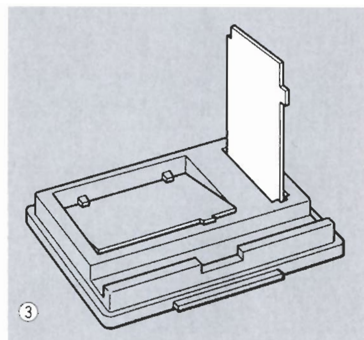
AX用のフォーカシングスクリーンは、FW-1～5の5種類が用意されており、撮影目的や用途に応じて交換することができます。
フォーカシングスクリーンにはスポット測光範囲を示す中央部のφ5mmの円（FW-1、FW-2はマイクロプリズム部外側）が示してあります。

● フォーカシングスクリーンは高精度に仕上げられておりますので、絶対に手で触れないでください。

FW-1（水平スプリット／マイクロプリズム式）…標準装備品。一般撮影に適しています。中央のスプリット部、その外周のマイクロプリズム部、周辺のマット部の3つの部分でピントを合わせることができます。
FW-2（コンビネーションマイクロ式）…一般撮影に適しています。中央部と外周部に角度の異なるマイクロプリズムを組み合わせたスクリーンです。中央部は明るいレンズを使用したときに精度よくピント合わせができます。外周部のマイクロプリズム部は暗いレンズを使ったときでもかげりにくいため、効率よくピントを合わせることができます。
FW-3（全面マット式）…全面をマット状にしたスクリーンです。長焦点レンズなど、比較的暗いレンズを使用するときや、接写などでマイクロプリズム部あるいはスプリット部ではピントが合わせにくい場合に適しています。
FW-4（方眼マット式）…全面マット式に6mm間隔の方眼を入れたスクリーンです。特にオートベローズやPCディスタゴンを使用してのアオリ撮影、あるいは複写など厳密に構図を決定するときに適しています。
FW-5（クロススケール式）…顕微鏡撮影や高倍率接写のときに使用するスクリーンです。中央が明るい透過式になっており、眼をわずかに左右に振っても十字線に対して像がずれないようにピントを調整します。また周辺のマット面でもピント合わせが可能です。目盛線（1mm間隔）を利用して撮影倍率や像の大きさを知ることができます。







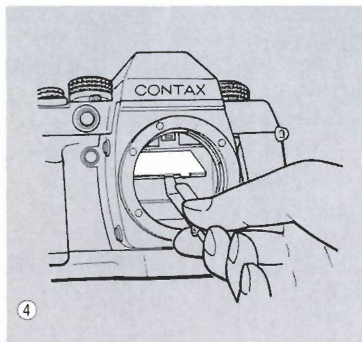
〈フォーカシングスクリーンの交換のしかた〉

※ 各スクリーンには、交換用のピンセットが付属しています。必ず付属のピンセットをご使用ください。

● スクリーンの交換は、フォーカシングスクリーンFWタイプ取扱説明書に記載の方法と異なります。次のようにして交換してください。

■スクリーンの取りはずし

まず、レンズを取りはずしてからカメラのスクリーン交換つめを指の先などで軽く押します。①
スクリーンが枠ごと下がりますから、静かにおろしてください。スクリーンの突起部をスクリーンに付属のピンセットではさんで取り出します。②
取り出したスクリーンは、ケースの溝に立てておくと汚れや傷をつける心配がありません。③



■**スクリーンの取り付け**

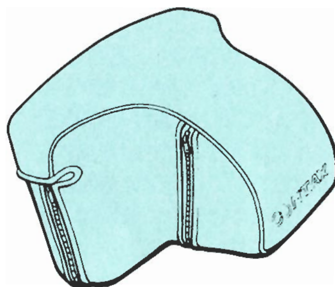
取り付けるスクリーンの突起部をピンセットではさみ、下がっている枠内に入れます。次に枠の突起部（交換つめ）をピンセットでカチッと止まるところまで静かに押し上げてください。④

最後に指で軽く押し、確実に入っているか確認してください。

これで取り付けは完了です。

- フォーカシングスクリーンの交換は必ず専用のピンセットを使用し、ミラー面、およびスクリーンに傷や指紋をつけないように注意してください。
- スクリーンにごみがついたときは、ブロワーで吹き飛ばすか、柔らかいレンズ刷毛で軽く払ってください。
- 取り付けかたが不完全ですと撮影中にスクリーンがはずれて破損したり、レンズの着脱ができなくなることがあります。このときは、専門的な処置を必要としますので最寄りのサービスステーションにお持ちください。
- 使わないスクリーンは、スクリーンケース内の図解に従って収納しておいてください。

フレックスケースC-5



ケース先端を伸縮させることにより、データバックD-8を装着したAXにカールツアイスT＊レンズの焦点距離135mm以下の単焦点レンズ、およびバリオゾナー40～80mm、35mm～70mm、28mm～85mm、35mm～135mmのズームレンズを装着したまま収納できます。

主な仕様

型式	：35mmフォーカルプレン式 AF一眼レフカメラ
画面サイズ	：24×36mm
レンズマウント	：コンタックス／ヤシカMMマウント
シャッター形式	：縦走行フォーカルプレンシャッター
シャッタースピード	：Av、P ....32秒～1/6000秒 Tv設定..............4秒～1/4000秒 マニュアル.......B、X（1/200秒）、4秒～1/4000秒
シンクロ接点	：X接点（1/200秒以下で同調）ダイレクト接点、およびシンクロターミナル付き
セルフタイマー	：電子式、作動時間10秒、2秒
シャッターレリーズ	：電子レリーズ方式、専用ケーブルスイッチソケット付き
焦点調節	：マニュアルフォーカス及び オートフォーカス
オートフォーカス	：TTL位相差検出方式によるオートマティック・バックフォーカシングシステム 測距検出範囲（ISO100）：EV2～21 オートフォーカスモード： SAF（シングルオートフォーカス） CAF（コンティニュアスオートフォーカス）
露出制御	：① 絞り優先オート ②シャッター優先オート ③プログラムオート ④マニュアル露出 ⑤TTLオートストロボ ⑥マニュアルストロボ
測光方式	：TTL中央重点平均／スポット測光切り替え式
測光連動方式 (ISO100,F1.4)	：中央重点平均測光............EV0～21 スポット測光....................EV3～21
フィルム感度連動範囲	：DXコードによる自動設定時 ....ISO 25～5000 マニュアル設定時 ....ISO 6～6400
AEロック	：像面光量記憶方式
露出補正	：+2EV～−2EV（1/3ステップで設定可能）
A·B·C機構	：A·B·Cレバーの設定による露出補正幅 ±0.5EV／±1EV
ストロボ調光連動方式	：TTLダイレクト調光方式

ストロボ同調：専用ストロボの充電完了によりシャッタースピード自動切り替え

ストロボオートセット機能：ストロボオートセット機能付き当社ストロボと組み合わせることにより可能

後幕シンクロ：後幕シンクロ機能のある当社ストロボと組み合わせることにより可能

ファインダー：ペンタプリズム使用のアイレベル型（ロングアイポイント式）
- 視野率……95%
- 倍率………0.7倍

（50mm標準レンズ無限遠、視度－1Dのとき）

視度補正：視度補正機構内蔵、補正範囲＋0.5D～－2.0D

フォーカシングスクリーン：水平スプリット／マイクロプリズム式（FW－1）を標準装備
スクリーン交換可能（FWタイプ）

ファインダー内表示：フォーカス表示、シャッタースピード、露出警告、絞り値、露出マーク、バックフォーカススケール、A·B·C表示、露出補正表示、測光マーク、フィルムカウンター／セルフタイマー残り時間、ストロボマーク

表示パネル：フィルムカウンター／フィルム感度／セルフタイマー残り時間／バルブ経過時間、多重露出表示、カスタム機能表示、バッテリー警告マーク、フィルムマーク、DX枚数表示

フィルム装填：オートローディング式
フィルムカウンター"01"までの空送り機構付き

フィルム巻き上げ：内蔵モーターによる自動巻き上げ

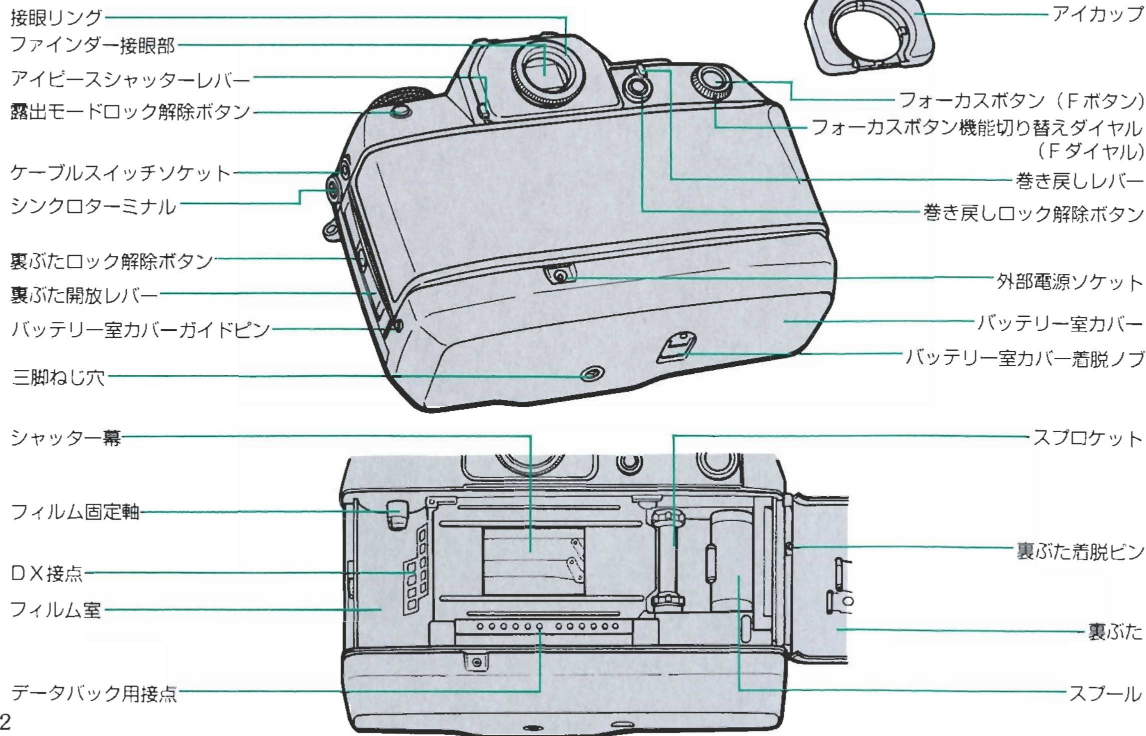
フィルム巻き戻し：内蔵モーターによる自動巻き戻し
巻き戻し終了後は自動停止、途中巻き戻し可能

ドライブモード：1コマ、連続（CL、CH）、セルフタイマー（2秒、10秒）、多重露出

巻き上げ速度	:	連続撮影（"CH" モード）最高約5コマ/秒（新品電池使用、常温、当社撮影基準による）
アクセサリーシュー	:	ダイレクト×接点（TLAストロボ連動接点付）
フィルムカウンター	:	表示パネル、ファインダー内とも自動復元順算式
カスタム機能	:	●露出チェックボタンの機能 ●多重露出設定方式の切り替え ●A·B·C撮影順序の切り替え ●絞り込みボタン操作方法の切り替え●フィルム巻き戻し時のフィルム残り ●フィルム終了時の巻き戻し ●AF補助光の点灯 ●AF合焦時の電子音（SAF）
裏ぶた	:	裏ぶた開放レバーによる開放式、着脱可能
電源	:	6Vリチウム電池（2CR5）1個使用
バッテリーチェック	:	自動チェック式、表示パネルに表示
フィルム撮影本数	:	36枚撮りフィルム約50本（新品リチウム電池2CR5使用、常温、当社撮影基準による）
その他	:	絞り込みボタン、外部電源ソケット付き
寸法	:	162（幅）×123.5（高さ）×72（奥行き）mm
質量	:	1,080g（電池別）

※仕様・外観の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。

本製品の機能をフルに活用していただくためにも、**交換レンズ、およびアクセサリー類は当社製品のご使用をおすすめします。**コンタックス用として市販されている他社商品を使用して生じた事故や故障については、当社では保証いたしかねます。


接眼リング
ファインダー接眼部
アイピースシャッターレバー
露出モードロック解除ボタン
ケーブルスイッチソケット
シンクロターミナル
裏ぶたロック解除ボタン
裏ぶた開放レバー
バッテリー室カバーガイドピン
三脚ねじ穴
アイカップ
フォーカスボタン（Fボタン）
フォーカスボタン機能切り替えダイヤル
（Fダイヤル）
巻き戻しレバー
巻き戻しロック解除ボタン
外部電源ソケット
バッテリー室カバー
バッテリー室カバー着脱ノブ
シャッター幕
フィルム固定軸
DX接点
フィルム室
データバック用接点
スプロケット
裏ぶた着脱ピン
裏ぶた
スプール